

福山市教育委員会会議（第3回）議事日程

2024年（令和6年）5月29日
午後2時 於：教育委員会室

日程第1	教育委員会会議録の承認について	
日程第2	教育長報告の報告について	
	教育長報告	1
	事務局報告	
	1 学校整備について	2
	2 再編後の学校に係るアンケート調査結果について	4
	3 福山市立学校児童数及び生徒数について	43
	4 福山100NEN教育 9th year の取組について	47
	5 通学路の安全対策について	50
日程第3 議第8号	2025年度（令和7年度）福山市立福山中学校及び福山市立福山高等学校の入学者選抜の基本方針及び選抜日程について	54
* 日程第4 議第9号	福山市いじめ問題調査委員会委員の委嘱について	
* 日程第5 議第10号	福山市図書館協議会委員の任命について	
* 日程第6 議第11号	福山市青少年修学応援奨学金審議会委員の委嘱について	
* 日程第7 議第12号	福山市奨学金審議会委員の任命について	

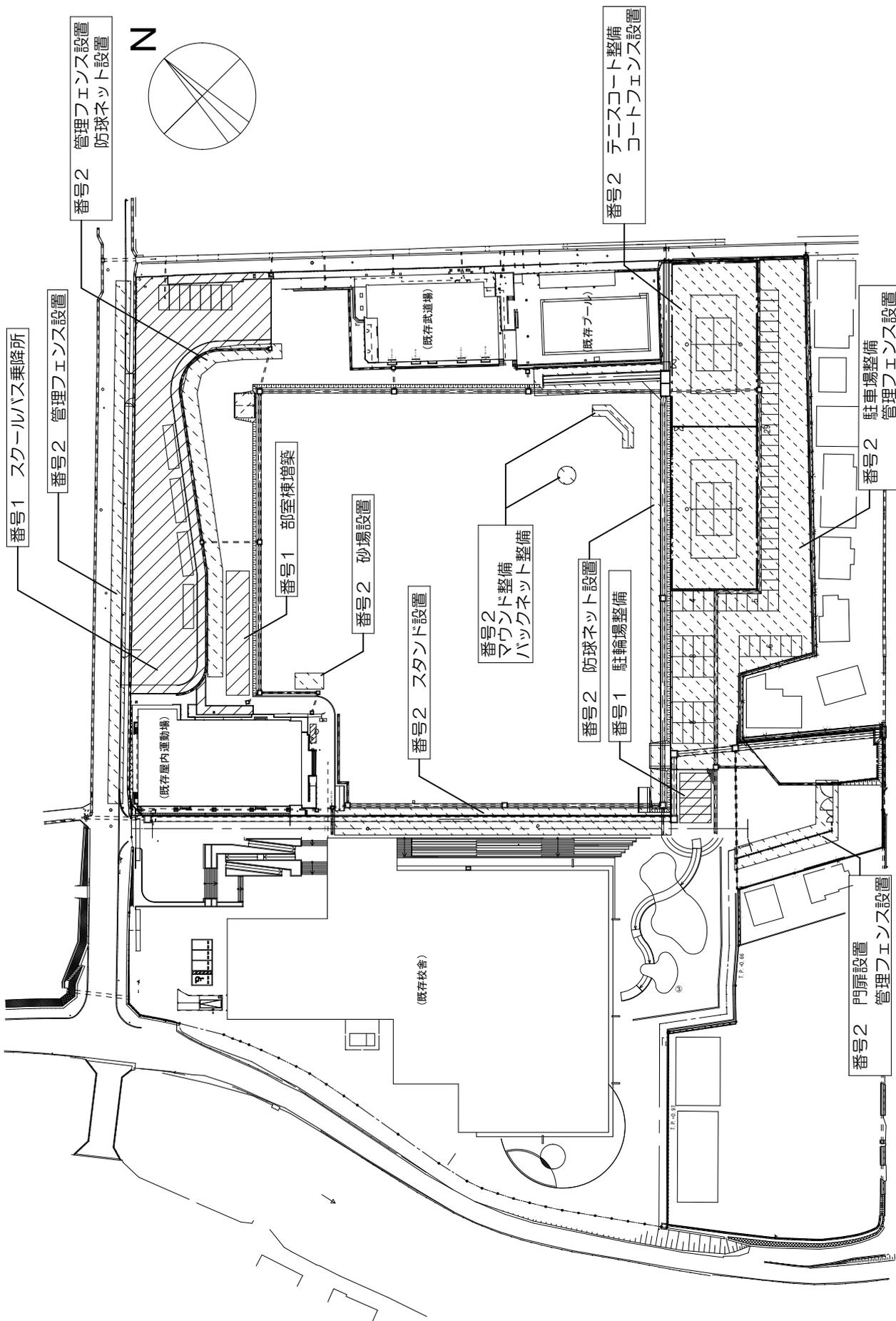
*は非公開予定

教育長報告

5月	11日	土	2024年度（令和6年度）福山市戦没者追悼式（福山城公園広場）
	12日	日	
	13日	月	
	14日	火	
	15日	水	校長面談、学校訪問（東中）
	16日	木	校長面談
	17日	金	校長面談
	18日	土	Rose Expo FUKUYAMA 2025 開催1年前プレイベント開会式 （ローズアリーナ）
	19日	日	Rose Expo FUKUYAMA 2025 開催1年前プレイベント閉会式 （ローズアリーナ）
	20日	月	
	21日	火	
	22日	水	
	23日	木	福山学校元気大賞部門賞表彰（向丘中）
	24日	金	土地開発公社理事会（市役所 60会議室）
	25日	土	2024年度（令和6年度）第1回福山市生涯学習振興基金運営協議会 （市役所 大会議室）
	26日	日	
	27日	月	
	28日	火	福山市古松会懇談会
	29日	水	フリースクールかがやき訪問（西部、中央） 第3回教育委員会会議 2024年度（令和6年度）PTA連合会定期総会

1 学校整備について

番号	工事名称	工事場所	完成予定日	構造・規模等	実施内容	図面 ページ
1	福山市立想青学園部室棟増築工事	福山市沼隈町大字草深 2058番地2	2024年 (令和6年) 12月27日	部室棟増築 鉄骨造2階建 床面積278.01㎡ 附属建物一式	部室棟増築他	3ページ
2	福山市立想青学園駐車場整備工事	福山市沼隈町大字草深 2058番地2	2025年 (令和7年) 2月28日	駐車場整備 テニスコート整備 フェンスH=4.0m L=214.5m スタンド設置 L=70.4m 防球ネット設置 北 H=8.0m L=66.0m 南 H=10.0m L=98.0m 外周管理フェンス設置 フェンスH=2.0m以下L=408.6m 門扉設置 マウンド・バックネット整備 砂場設置	駐車場整備他	3ページ



想青学園整備事業

- ： 番号1 福山市立想青学園部室棟増築工事
- ： 番号2 福山市立想青学園駐車場整備工事



2 再編後の学校に係るアンケート調査結果について

(1) アンケート調査の概要

ア 目的

少子化に伴い学校が小規模化する中、子どもたちに主体的・対話的で深い学びを通して、必要な力「21世紀型“スキル&倫理観”」を育むことができるよう、一定の集団規模のより良い学びの環境づくりのため、学校再編に取り組んでいる。

2022年（令和4年）4月に開校した想青学園（前期課程及び後期課程）及び新市中央中学校並びに2023年（令和5年）4月に開校した加茂小学校及び加茂中学校において、児童及び生徒並びに保護者を対象に行ったアンケート調査から状況を把握し、成果と課題を明らかにすることで、これからの取組に活かしていくものとする。

なお、想青学園及び新市中央中学校は、2023年（令和5年）2月にアンケート調査を実施しており、本調査は2回目である。

イ 調査対象（2024年（令和6年）2月時点）

(ア) 想青学園（前期課程）

	対象者数（人）	回答者数（人）	回答率（%）
児童	358	267	74.58
保護者	358	93	25.98

(イ) 想青学園（後期課程）

	対象者数（人）	回答者数（人）	回答率（%）
生徒	212	168	79.25
保護者	212	71	33.49

(ウ) 新市中央中学校

	対象者数（人）	回答者数（人）	回答率（%）
生徒	457	384	84.03
保護者	457	237	51.86

(エ) 加茂小学校

	対象者数（人）	回答者数（人）	回答率（%）
児童	639	610	95.46
保護者	639	407	63.69

(オ) 加茂中学校

	対象者数（人）	回答者数（人）	回答率（%）
生徒	308	259	84.09
保護者	308	174	56.49

ウ 調査期間

2024年（令和6年）2月1日から同年2月16日まで

エ 調査結果

【別冊資料】 学校生活についてのアンケート調査結果

(2) 想青学園（前期課程）の状況

ア 第1回アンケート調査報告後の取組

開校1年目、再編によりめざす姿である「多様性を認め合い、自ら考え、意欲的に学ぶ」ことに向け、地域の方々の温かい協力を得て、特色ある教育を行う中で、子どもたちは、それぞれが努力し、着実に力を付け、成長していった。一方で、学校の取組への要望等が個別具体に出されたことから、学校と連携し、次のように取り組んだ。

(ア) 教育内容の充実

約9割の児童が、授業について肯定的な回答をしていた。一方、約1割が否定的な回答をしていたため、友だちとの意見の共有によって自分の考えを深められる授業、子どもが問いを持ち、自ら解決に向かう授業など、子どもが学ぶ喜びを感じられる授業づくりに取り組んだ。

(主な取組)

- ・国語、社会、算数・数学、理科、英語、芸術保体という6つの教科グループを立ち上げ、学習指導要領をもとに学習内容のつながりを考えたり、授業での子どもの様子から各教科の面白さや難しさなどを探ったりする研修を定期的に行った。
- ・内海・沼隈の多彩な地域資源を素材に探究的に学習する「S O S E I 学」で、地域の良さや課題を見つけ、それを地域に発信したり、解決策を実行したりした。

(イ) 人間関係づくり

友だち関係が理由で学校が楽しくないと感じている児童がいたため、子どもたちが日常的に学校のあらゆる空間でふれあいながら学んでいけるよう、関わり合う場や環境を意図的に作り、学び合う集団づくり、お互いの違いを認め合える仲間づくりに取り組んだ。

(主な取組)

- ・体育大会やS O S E I 祭などの学校行事で全校児童生徒と一緒に活動する、ランチルームで1年生と6年生と一緒に給食を食べる、1年生から9年生までの20人程度が一つの班になって自己紹介や9年生が考えた様々な遊びを楽しむ「縦割り交流デイ」など、児童生徒が関わり合う場、交流する場を設けた。
- ・言語・人文社会・数学・理科・音楽・アート&クラフト等のメディアスペースに置く教材等を工夫した。

(ウ) 地域とのつながり

「地域学習により学びが広がっている。もっと授業に取り入れてほしい」といった意見を踏まえ、子どもたちが地域に出て、体験を通して学ぶ教育活動の充実に取り組んだ。

(主な取組)

- ・SOSEI学で、地域や地元企業等から「たくさんの人に内海の海を大切にしようという思いを持ってほしい」「山本瀧之助といった人物をはじめ地域の文化や歴史の良さを地域に発信してほしい」などのミッションを受け学習を進めた。
- ・SOSEI祭において、地域から依頼されたミッションに対して、地域の課題解決に向けて考えた取組をプレゼンしたり、アイデアを商品化して販売したりして、参加者から意見・評価をもらった。

(エ) コミュニティ・スクールを活かした教育活動

コミュニティ・スクールの理解が進んでいないことから、学校運営協議会において、学校運営方針について議論を重ねながら教育活動を進めた。

(主な取組)

- ・SOSEI学について、年間カリキュラムをもとに目標と育成する力を共有した上で、学びをより豊かなものにするためには何が必要か、表現力・共感力・チャレンジ精神といった育てたい力を付けるためには何ができるかを協議し、具体のミッションや体験活動を提案した。

イ 第2回アンケート調査に係る考察及び今後の取組

(ア) 児童

◆学校生活について
○「学校が楽しい・どちらかと言えば楽しい」 91% (93%)
◆授業について
○「新しいことを知ったり、調べたりすることが楽しい・どちらかと言えば楽しい」 90% (92%)
○「自分で考えたり、友だちと話し合ったりすることが楽しい・どちらかと言えば楽しい」 94% (95%)
○「『分かった』『できた』と実感することがよくある・どちらかと言えばある」 88% (88%)
◆義務教育学校について
<<新規>>
○「1年生から9年生までと一緒に学ぶ学校について、いいなと思うことがよくある・どちらかと言えばある」 82%
○「かかわる つながる」を学校生活の中で実感することがよくある・どちらかと言えばある」 61%

※ () 内の数値は1回目のアンケート調査における回答の割合。以下同じ。

◆学校生活について

○考察

9割以上の児童は「学校が楽しい」と答えている。その理由は「授業が楽しい」

「班の人と意見を出して話し合うことが楽しい」「クラスや班の人と取り組むイベント等がすごく楽しい」「学校が新しく、言語や理数など面白いメディアが多いから」などであった。

環境が大きく変化した旧内浦・内海・能登原・常石小の児童（3～6年生）については、90%が「楽しい」と答えている。その理由は「みんなと意見や疑問を言い合ったり、実験したりすることが楽しい」「様々な人とふれ合うことができ、班の人と協力して楽しく学習できる」などであった。

児童の多くは学校生活を楽しく感じていることが分かる。義務教育学校のメリットを生かした集団づくり・仲間づくりが進められる中で、子どもたちは伸び伸びと学んでいる。

1割弱の児童は「学校が楽しくない」と答えている。その理由は「授業についていけない」「心の底から話せる友だちがいなくて寂しい」「小中一貫校なので中学生に全部してもらえばかりで役割がなくなっているから」などであった。

○今後の取組

学校が楽しくないと感じている児童には、その理由を踏まえ、子どもの様子を見ながら、対話を大切にされた個別の支援を行っていく。9年間の学びを一体的に捉える中で、前期課程と後期課程、前期・中期・後期といった区切りをつけた取組を行い、6年生がリーダーシップを発揮できる場や学年に応じた役割を持てる場をつくっていく。

◆授業について

○考察

約9割の児童は「新しいことを知ったり、調べたりすること」や「自分で考えたり、友だちと話し合ったりすること」が楽しい、「『分かった』『できた』と実感すること」があると肯定的な回答をしている。その理由は「新しいことを知りたい」「考えるのが楽しい。いろいろな考えがあって楽しい」「国語、図工等の授業が楽しい」「苦手な授業もあるけど知識を深めるのは嬉しい」などであった。

学校では、全ての学級で「子ども主体の学びづくり」に向け、友だちと対話し、自分の考えを深めたり広げたりする授業づくりに取り組んでいる。S O S E I学では、フィールドワークやインタビューを通して地域の人々と交流し、地域のためにできることを考え、実践することに取り組んでいる。

子どもたちは、授業を楽しく感じ、学ぶ過程で「分かった・できた」と実感していることが伺える。

約1割の児童は否定的な回答をしている。その理由は「いろいろな考えを聞きたいので、みんなに発言や発表をしてほしい」「もっと集中する人が増えたら良い」「理解できていないのに、授業を先々進めることを改善してほしい」などの理由であった。

○今後の取組

改めて、子どもたちの学ぶ姿を見る中で、S O S E I学や各教科をつなげながら、友だちとの意見の共有によって自分の考えを深められる授業、子どもが問いをもち、

自ら解決に向かう授業など、子どもが学ぶ喜びを感じられる授業づくりに取り組んでいく。

◆義務教育学校について

○考察

8割以上の児童は「1年生から9年生までと一緒に学ぶ学校についていいなと思うこと」があると肯定的な回答をしている。その理由は「児童生徒が多いほど友だちが増える」「いろいろな学年と生活して新たに得られるものがある」「中学生（後期課程）がいることで目標が分かる。部活や後期課程の活動の様子を見ることが出来る」などであった。

2割弱の児童は否定的な回答をしている。その理由は「後期生が少しこわい」「6年生を終えても後期生になる実感がわからない」であった。

また、6割以上の児童が「想青学園が大切にしている『かかわる つながる』を、学園生活の中で実感すること」があると答えている。その理由は「いろんな学年の人、地域の人と関わることができ、見学に行つて知らないことを知り、分かることができた」「授業や行事で地域の人から教えてもらったり、一緒に活動したりするときに感じる。広がった地域のことをしっかりと学べる」「上級生が下級生のためにいろいろなことを企画し、一緒に遊んでくれる」などであった。

1年生から9年生までが一つの校舎で学校生活を送り、日常的な異学年交流によって下級生は上級生を手本にし、上級生は下級生を可愛がっている様子が伺える。そして、S O S E I学や学校行事、登下校の見守りなど多くのふれあいを通して、再編した地域の方々とかかわり、つながりながら、子どもたちが成長していつていくことが分かる。

○今後の取組

前期課程から後期課程にスムーズに移行できるメリットを活かす中で、前期課程修了の節目を感じることでできる工夫をしていく。そして、引き続き、子どもたち同士、子どもたちと地域が「かかわる つながる」を実感できる交流や学びを進めていく。

記述回答

(想青学園で学ぶようになってから気が付いたこと(変化)、自分でも努力したこと)

○考察

「人が多くなったが、コミュニケーションを頑張った」「前より勉強にやる気が出た。友だちと意見を交流する楽しさに気付いた」「何にでもチャレンジするようになった」などと答えている。

友だちとコミュニケーションを図り、学び合いながら、意欲的に学校生活を送っていることが伺える。

(困っていること)

○考察

「嫌なことを言われる」「友だちが少ないから、みんなともっと仲良くなりたい」
「授業中うるさい」などと答えている。

○今後の取組

状況を確認し、個別に必要な対応を行っている。引き続き、個に応じた支援を行うとともに、多様な意見を交流し合う授業を通して、他者を大切にしようとする意識を高めていく。

(前の学校の時よりも学校の規模（集団規模）が大きくなって、感じていること)

※3年生以上の旧内浦・内海・能登原・常石小児童

○考察

「話し相手や友だちが増えて嬉しい」「相談できる人ができた」「前の学校よりも大きなイベントができる」などの意見があった。

多様な友だちと関わりながら、社会性を育てていることが分かる。

一方、「まだ慣れないところがあるから前の学校がいい」「友だちが増えてもあまり嬉しくない」という回答もあった。

○今後の取組

日常の会話を通して、子どもたちの困り感を把握できるよう働きかけをしている。引き続き、個別に児童と話をするなど、様子を見ながら必要な対応を行っている。

(イ) 保護者

○「子どもは学校生活を楽しく過ごしている・どちらかと言えば楽しく過ごしている」 94% (94%)

《新規》

○「1年生から9年生までが一緒に学ぶ学校について、良いと思うことがよくある・どちらかと言えばある」 78%

(学校生活)

○考察

9割以上の保護者は「子どもが学校生活を楽しく過ごしている」と答えている。その理由は「学校であったことを嬉しそうに話してくれる」「発表会や運動会に向けての練習を張り切っている」「S O S E I 祭など、子どもたちが自分たちで考えて活動している」などであった。

1割弱の保護者は「子どもが学校生活を楽しく過ごしていない」と答えている。その理由は「友だち関係で悩んでいる」「学校に行きたがらないから」などであった。

保護者は、子どもから話を聞き、その表情や態度から、楽しく過ごしていると安心されたり、子どもの成長を感じとられたりしていることが伺える。

○今後の取組

学校生活に悩み等がある児童には、継続して対話をしながら、個に応じた支援を

行っていく。

(義務教育学校)

○考察

約8割の保護者は「1年生から9年生までと一緒に学ぶ学校についていいなと思うこと」があると肯定的な回答をしている。その理由は「様々な年齢の子どもと関われる」「後期課程の先輩たちの頑張っている姿を見ることができて刺激になる」「後期課程になったらこうしたいという明確な目標が立てやすい」「困ったとき後期課程の生徒が助けてくれており、自分もこうなりたいと優しさや思いやりが生まれている」「後期課程の先生が前期課程の児童も指導してくれており、後期課程になる不安が減少できる」などであった。

約2割の保護者は否定的な回答をしている。その理由は「あまり後期課程とはかわりがないと言っていたから」「小学校の卒業式がないから」「運動会は、前期課程と後期課程で分けた方が良い。人数が多すぎてどこにいるか分からない」などであった。

保護者は、日常的な異学年交流により、上級生と下級生相互に良い効果があることを感じていることが分かる。

○今後の取組

学校行事や式典については、全児童生徒が関わり合いながら学ぶ良さを実感できるような取組を進めていく。

記述回答

(教育活動（授業、行事等の取組）について、良いと思うことや課題に思うこと)

○考察

良いと思うこととして「地域の事を積極的に学習する機会があり、自分の地域が素敵な地域だと実感できる」「参観日やS O S E I祭など、保護者が学校に行って子どもの学習を実際に見る機会が多い」「S O S E I学は特色があって、自分も一緒に学びたいくらいだ」「上級生と学び、憧れを抱くことが、自分を高め努力する意欲につながっている」「子どもの好きや得意、やりたいことを大切にすることを前提に教育している」などの意見があった。

課題と思うこととして「前期課程修了の儀式がないため、子どもも親も切り替えができない」「本来なら6年生は最高学年で下級生をまとめていくイメージだが、9年生がいるので責任感が全くない」などの意見があった。

○今後の取組

今後も、コミュニティ・スクールの仕組みを活かし、地域の方々の協力を得ながらS O S E I学や各教科等の教育内容の充実を図り、「子ども主体の学び」を推進するとともに、義務教育学校のメリットを生かした教育活動を進めていく。

前期課程から後期課程への進級時に行っている修了証書授与式を、より節目を実感できるようにしていく。学校行事のあり方については、全校で行うもの、前期・後期で分けて行うものなど、行事の目的や教育効果、保護者の意見等を踏まえる中で継続的に検討していく。

(想青学園が大切にしている『かかわる つながる』を、これまでに感じたこと)

○考察

「体育祭で全学年一丸となって応援合戦をし、各競技に臨んでいたこと」「上級生ととても仲が良く、縦のつながりがいいと感じる」「普段なら小学生と中学生がかかわることはないが、想青学園だからこそ縦のつながりで関わり合っている」「地域とのかかわり、教科間のつながりのある学習をしている」「SOSEI祭で、学習したことをよく分かるように説明していて、地元のことをよく勉強していると感じた」などの意見があった。

○今後の取組

今後も、『かかわる つながる』を大切にされた学校運営・教育活動を進め、保護者に主体的に教育活動に参画していただけるよう取り組む。

(想青学園で学ぶようになって子どもたちが成長したと思われること、子どもたちが努力し克服したこと、その時保護者がされたかかわり〔応援や励まし、教員への相談〕など)

○考察

「友だちとの関わり方を本人なりに試行錯誤しながら学んでいる。親としては、話を聞いて、本人が言葉にすることで思いに気付けるようにした。」「自分で考え意見を言えるようになったので少し安心している」「友だちが増えていろいろな性格の児童がいることで、対応の仕方や考え方が大人になった」「友だちとの関わりで悩む事が多いので、子どもの話をよく聞くようにしている」「授業で分からないことがあった時は、授業終了後に先生や友だちに聞いてみるのはいかがでしょうか提案したところ、それを実践し、苦手な教科でも発表するようになり、失敗を恐れなくなったことに成長を感じた」などの意見があった。

子どもの成長を温かく見守り、頑張っていることを褒め、励まし、応援して下さっている保護者の姿が伺えた。

(今心配に思われていること、教育委員会や学校に知らせたいこと)

○考察

「縦割り学習を増やすなど学校の良いところを活用し、学校独自の色を出して、想青学園で学んでよかったと思える教育を望む」「身だしなみが乱れている生徒がおり、影響を受けないか心配」「後期課程の生徒は前期課程の児童のお手本になれるような立ち振る舞いを心掛けてほしい」などの意見があった。

○今後の取組

想青学園で学んでよかったと思ってもらえるよう、義務教育学校のメリットや多彩な地域資源のある校区を活かした教育内容の充実に、引き続き取り組んでいく。また、この間学校のきまりや生徒指導規程を児童生徒が主体になって考え、行動化できるよう取り組んできている。そうした取組過程も含め保護者と一緒になって子どもたちの育成を図る。

(前の学校よりも学校の規模(集団規模)が大きくなって感じていること)

※3年生以上の旧内浦・内海・能登原・常石小児童の保護者

○考察

「子どもは、クラスの仲間が増えて、いろいろと刺激を受け成長していると感じるが、先生方や保護者同士の関わりが少ないため、大人も子どもも交えて交流する機会があるといい」「前の学校では、低学年は同じ教室で勉強していたので集中して学べなかったし、嫌なことがあっても逃げ場がなかったので、想青学園に来て本当に良かったと思っている」「大人数での学校生活で中身が薄くなり、今までのような濃い学校生活がなくなった」などの意見があった。

多くの保護者は、子どもが友だちと関わりながら成長している姿を通して、学校規模が大きくなったことを肯定的に捉えている。一方で、子ども同士や保護者同士の関わりの濃さが薄くなったと感じている。

○今後の取組

引き続き、「かかわる つながる」ことを大切にした教育活動・交流の場の充実に努める。

(コミュニティ・スクールについて、教育活動を充実させるため、保護者(地域)としてどんなことができると思うか、また子どもたちの学びにどうかかわっていききたいか)

○考察

「自分たちの住んでいる地域で盛んな農業、漁業、工業など自慢できることを探して調べるなど、親も一緒に学んでいきたい」「先生がかかわるのが難しい場面や忙しくて人手がほしい場合など、できることはなんでもやっていきたい」「もっとコミュニティ・スクールであることを、保護者・地域に知ってもらう必要がある」などの意見があった。

○今後の取組

コミュニティ・スクールは「学校運営協議会」を設置した学校であり、子どもたちがどのような課題を抱えているのか、地域でどのような子どもを育てていくのか、何を実現していくのか、目標やビジョンを共有し、学校・地域・保護者が一体となって子どもたちを育てていくものである。地域とともにある学校づくりを通して、地域の学校への関わりが、理解から協力へ、さらには参画へと膨らみ、子どもや学校が抱える諸課題の解決や地域資源を活用した教育内容の充実などにつながる。多くの保護者や地域の皆さんに学校運営に参画していただき、教育内容の充実を図っていくことができるよう、学校運営協議会でしっかりと議論しながら取り組んでいく。

(ウ) まとめ

開校2年目の昨年度、1回目のアンケート結果を踏まえ、子どもたちが安心して学校生活を送ることができるよう、また、子どもたちが「学びが面白い」と実感できるように、教育委員会と学校が密に連携し、指導主事が学校を継続して訪問するなど、授業づくりや個に応じた支援などに取り組んだ。

2回目のアンケート結果では、住んでいる地域に関係なく仲間づくりができてきているとともに、友だち関係がうまくいかないといった子どもには、引き続き、個別の支援が必要であることが分かった。

想青学園は、地域とともにある学校づくりのパイロット校として、義務教育学校のメリットとコミュニティ・スクールの仕組みを活かす中で、「かかわる つながる」ことを大切にしたい学校づくりを進めている。独自教科のSOSEI学では、学校運営協議会の委員が学校と地域をつなぎ、内海・沼隈地域の多彩な地域資源を学習素材として、教育内容の充実を図るとともに、地域貢献にもつながる探究学習に取り組んでいる。

また、教職員は、授業実践力を高めるため「広島県叡智学園の社会科ユニットデザインから学ぶ研修」や「STEAM型探究学習の研修」などを受講し、子どもが自ら課題を探究する授業に向けて、教材研究、授業実践、検証、改善等を行っている。

昨年度は、全国から15団体134人の視察があり、学校図書館を始め、人文社会、理科メディアなど、子どもの興味を喚起する場、高性能パソコンや3Dプリンターを設置しているデジタルラボ等の施設に感動し、子どもが立体模型を制作したり、動画編集したりする姿、学校のあらゆる空間で、疑問を出し合いながら意欲的に学んでいる姿を見て、高い評価をいただいている。

教育委員会は、学校とともに、多様な友だちと学び合える環境だからこそ、すべての子どもたちが持っている「やりたい」「知りたい」という思いをより一層大切にしながら、子どもたちが知っていることを使って考えると、分かることがたくさんあるという感覚を授業の中で積み重ねていけるよう、今後も学びを中心に据えた取組を着実に進めていく。

(3) 想青学園（後期課程）の状況

ア 第1回アンケート調査報告後の取組

開校1年目、再編によりめざす姿である「多様性を認め合い、自ら考え、意欲的に学ぶ」ことに向け、地域の方々の温かい協力を得て、特色ある教育を行う中で、子どもたちは、それぞれが努力し、着実に力を付け、成長していった。一方で、学校の取組への要望等が個別具体に出されたことから、学校と連携し、次のように取り組んだ。

(ア) 教育内容の充実

約9割の児童が、授業について肯定的な回答をしていた。一方、約1割が否定的な回答をしていたため、友だちとの意見の共有によって自分の考えを深められる授業、子どもが問いを持ち、自ら解決に向かう授業など、子どもが学ぶ喜びを感じられる授業づくりに取り組んだ。

(主な取組)

- ・子どもと教材を主語に、教材研究に重きを置いた授業を実践した。
- ・内海・沼隈の多彩な地域資源を素材に探究的に学習する「S O S E I 学」で、地域の良さや課題を見つけ、それを地域に発信したり、解決策を実行したりした。

(イ) 人間関係づくり

友だち関係が理由で学校が楽しくないと感じている生徒がいたため、子どもたちが日常的に学校のあらゆる空間でふれあいながら学んでいけるよう、関わり合う場や環境を意図的に作り、学び合う集団づくり、お互いの違いを認め合える仲間づくりに取り組んだ。

(主な取組)

- ・体育大会やS O S E I 祭などの学校行事で全校児童生徒と一緒に活動する、ランチルームで1年生と6年生と一緒に給食を食べる、1年生から9年生までの20人程度が一つの班になって自己紹介や9年生が考えた様々な遊びを楽しむ「縦割り交流デイ」など、児童生徒が関わり合う場、交流する場を様々設けた。
- ・言語・人文社会・数学・理科・音楽・アート&クラフト等のメディアスペースに置く教材等を工夫した。

(ウ) 地域とのつながり

「S O S E I 学で地域のことを知ることができる。もっと地域住民との関わりがあった方がよい」といった意見を踏まえ、子どもたちが地域に出て、体験を通して学ぶ教育活動の充実に取り組んだ。

(主な取組)

- ・S O S E I 学で、地域や地元企業等から「たくさんの人に内海の海を大切にしようという思いを持ってほしい」「山本瀧之助といった人物をは

じめ地域の文化や歴史の良さを地域に発信してほしい」などのミッションを受け学習を進めた。

・SOSEI祭において、地域から依頼されたミッションに対して、地域の課題解決に向けて考えた取組をプレゼンしたり、アイデアを商品化して販売したりして、参加者から意見・評価をもらった。

(エ) コミュニティ・スクールを活かした教育活動

コミュニティ・スクールの理解が進んでいないことから、学校運営協議会において、学校運営方針について議論を重ねながら教育活動を進めた。

(主な取組)

・SOSEI学について、年間カリキュラムをもとに目標と育成する力を共有した上で、学びをより豊かなものにするためには何が必要か、表現力・共感力・チャレンジ精神といった育てたい力を付けるためには何ができるかを協議し、具体のミッションや体験活動を提案した。

イ 第2回アンケート調査に係る考察及び今後の取組

(ア) 生徒

◆学校生活について
○「学校が楽しい・どちらかと言えば楽しい」 93% (84%)
◆授業について
○「新しいことを知ったり、調べたりすることが楽しい・どちらかと言えば楽しい」 92% (91%)
○「自分で考えたり、友だちと話し合ったりすることが楽しい・どちらかと言えば楽しい」 95% (92%)
○「『分かった』『できた』と実感することがよくある・どちらかと言えばある」 86% (86%)
◆義務教育学校について
《新規》
○「1年生から9年生までが一緒に学ぶ学校について、いいなと思うことがよくある・どちらかと言えばある」 77%
○「かかわる つながる」を学校生活の中で実感することがよくある・どちらかと言えばある」 59%
◆部活動について
○「部活動に参加している」 93% (60%)
○「部活動は楽しい・どちらかと言えば楽しい」 87% (88%)

※ () 内の数値は1回目のアンケート調査における回答の割合。以下同じ。

◆学校生活について

○考察

9割以上の生徒は「学校が楽しい」と答えている。その理由は「友だちと会って

話ができる」「授業も部活も楽しい」「友だちとたくさん学び合い、コミュニケーションを取れるから」「新たな知識を得られることや、友だちとの教え合いや交流を通して将来目ざす人物像に近づくことができる」「いろんな先生と勉強できて楽しい」などであった。

環境が大きく変化した旧内浦・内海・能登原・常石小から進学した生徒（7・8年生）と旧内海中の生徒（9年生）については、91%が「楽しい」と答えている。その理由は「いろんな人と話すことができる」「話せる友達がクラスに多いから」「自分のできる事が増えると嬉しいから」「授業で新しい知識を知ったり、みんなで話せたりするから」「部活が楽しい」などであった。

1割弱の生徒は「学校が楽しくない」と答えている。その理由は「あまり仲が良くない人といたりすると気まずくなる」「勉強の内容がよく理解できないし、勉強を教えてって言いづらいから」などであった。

生徒の多くは学校生活を楽しんでいることが分かる。義務教育学校のメリットを生かした集団づくり・仲間づくりが進められる中で、子どもたちは伸び伸びと学んでいる。

○今後の取組

学校が楽しくないと感じている生徒には、その理由を踏まえ、子どもの様子を見ながら、対話を大切にされた個別の支援を行っていく。

◆授業について

○考察

約9割の生徒は「新しいことを知ったり、調べたりすること」や「自分で考えたり、友だちと話し合ったりすること」が楽しい、「『分かった』『できた』と実感すること」があると肯定的な回答をしている。その理由は「友だちとの学び合いは、お互いの理解を深めることに繋がる」「班での活動は自分の意見を言える時や、班の人と意見を交流する中で見出した新たな視点が入ってくるからいい」などであった。

学校では、全ての学級で「子ども主体の学びづくり」に向け、友だちと対話し、自分の考えを深めたり広げたりする授業づくりに取り組んでいる。S O S E I学では、フィールドワークやインタビューを通して地域の人々と交流し、地域のためにできることを考え、実践することに取り組んでいる。

子どもたちは、授業を楽しみ感じ、学ぶ過程で「分かった・できた」と実感していることが伺える。

約1割の生徒は否定的な回答をしている。その理由は「ずっと教えてもらうだけではなく、自分で考えて応用を解いたりしたい」「苦手な教科になるとやる気が無くなるので授業の中にもっと面白い要素を入れてほしい」「もっと積極的に発表させた方がいい」「授業中に私語が多い」などの理由であった。

○今後の取組

改めて、子どもたちの学ぶ姿を見る中で、教師が一方向的に教える授業になっていないか授業を振り返るとともに、S O S E I学や各教科をつなげながら、友だちとの意見の共有によって自分の考えを深められる授業、子どもが問いをもち、自ら解

決に向かう授業など、子どもが学ぶ喜びを感じられる授業づくりに取り組んでいく。

◆義務教育学校について

○考察

約8割の生徒が「1年生から9年生までと一緒に学ぶ学校についていいなと思うこと」があると肯定的な回答をしている。その理由は「関わったことのない人やみんなと関わることができるから」「上級生が下級生にお手本を見せられるから」「1年生から9年生までが団結して一つのことをしているのがいい」「授業で学んだことを他学年に教えることで、いい経験になり学びが深まる」などであった。

約2割の生徒は否定的な回答をしている。その理由は「前期と後期でそれぞれにいい影響もあるけど悪影響も多いし統一感が出ない」「授業時間がずれていて、うるさいときがある」などであった。

また、約6割の生徒が「想青学園が大切にしている『かかわる つながる』を、学園生活の中で実感すること」があると答えている。その理由は「前期と後期と一緒に楽しめる遊びやイベントがある」「困っている人がいたら、すぐに助ける人がいる」「S O S E I 学では校内だけでなく、地域と関わる授業がある」などであった。

1年生から9年生までが一つの校舎で学校生活を送り、日常的な異学年交流によって下級生は上級生を手本にし、上級生は下級生を可愛がっている様子が伺える。S O S E I 学や学校行事など多くのふれあいを通して、子ども同士がつながりを深めながら成長していっていることが分かる。

○今後の取組

前期課程と後期課程の児童生徒が、互いを尊重し、相手の立場に立って考え行動できるよう取り組む。

また、『かかわる つながる』を大切にされた学校運営・教育活動を進め、義務教育学校や再編した地域の良さを、体験や対話を通して実感できるよう取り組む。

◆部活動について

○考察

9割以上の生徒が部活動に参加し、そのうち約9割の生徒が楽しいと答えている。その理由は「自分のスキルがちょっとずつ向上しているのを感じられた」「自分の好きなスポーツができるから」「お互いを高め合うことができた」などであった。

自分がやりたい部活動を、目標に向かって仲間と切磋琢磨しながら取り組む中で、自己の力やチーム力を向上させ、達成感を味わっている。

少数であるが「練習が面白くない」「自分は本気でも、他の人が本気じゃない」などの意見もあった。

○今後の取組

顧問や部活動指導員は、生徒の意見も聞きながら練習内容を検討するなど、生徒が主体的に取り組む、活力ある活動にしていく。

記述回答

(想青学園で学ぶようになってから気が付いたこと (変化)、自分でも努力したこと)

○考察

「人と関わることが増え、コミュニケーションが取れるようになった」「低学年との関わりが苦手と思っていたが、学校生活を共有することで関わることの楽しさが分かった」「いろいろな学年と関わることで、いろいろな価値観が生まれる」「人数が増え、年齢の幅も広まったことでどのような話し方なら伝わるか、困っている人はいないかなど、より一層周囲のことを考え行動できるよう努力した」「SOSEI学などで地域の良さを自らアピールしていくことで地域の活性化につながることに気が付いた」などと答えている。

多様な人とコミュニケーションを図り、学び合いを通して刺激を受けながら、意欲的に学校生活を送っていることが伺える。

(困っていること)

○考察

「校則を守っていない人がいる」「授業をまじめに受けてない人がいる」「もっと他の学年と関わる機会があったらいい」などと答えている。

○今後の取組

状況を把握し、個別又は全体に必要な取組を行っている。今後も、子ども同士の意見交換や交流の場を増やす中で、自ら考え行動し、他者を大切に作る仲間づくりを進めていく。

(前の学校のときよりも学校の規模 (集団規模) が大きくなって感じていること)

※9年生の旧内海中生徒

○考察

「トラブルが起こったり、とっつきにくい人もいたりするけれど、友だちが増えて楽しい」「自分と合わない人や合っている人などがいて、みんな個性があふれているからいいなと思った」「内海中学校ではできなかった授業などもできた」といった意見があった。

多様な友だちと関わりながら、コミュニケーション力や社会性を育てていることが分かる。

(イ) 保護者

○「子どもは学校生活を楽しく過ごしている・どちらかと言えば楽しく過ごしている」 89% (88%)

《新規》

○「1年生から9年生までと一緒に学ぶ学校について、いいなと思うことがよくある・どちらかと言えばある」 69%

(学校生活)

○考察

約9割の保護者は「子どもが学校生活を楽しく過ごしている」と答えている。その理由は「学校での出来事や友だちの事などをよく話してくれる」「勉強は充実しているように見受けられるし、友だちとも楽しく過ごしている様子」などであった。

約1割の保護者は「子どもが学校生活を楽しく過ごしていない」と回答し、その理由は「友だちグループができて中へ入りきれず、学校の気質に馴染みきれていない」などであった。

保護者は、子どもから話を聞き、その表情や態度から、楽しく過ごしていると安心されたり、馴染めていないと心配されたりしていることが分かる。

○今後の取組

学校には、オアシスルームやクラスブース、メディアスペースなど、子どもたちの居場所となる空間を様々作っている。環境に馴染めていない生徒や教室にはいりづらいと感じている生徒には、引き続きそうした場所も利用し、対話をしながら個に応じた支援を行っていく。

(義務教育学校)

○考察

約7割の保護者は「1年生から9年生までと一緒に学ぶ学校についていいなと思うこと」があると肯定的な回答をしている。その理由は「前期課程の児童は後期課程へのイメージを持ちやすく、ギャップも少なくスムーズに後期課程に移行でき、後期課程の生徒にとっても前期課程の子たちと接することで視野を広く持てる」「小さい学年に関わることで優しさや思いやりなどが育つ」「違う年齢の子どもが集まってくるため、それぞれの立場に立った考え方ができる」「上級生を見て、良いことも良くないことも学び、考えて行動するから」などであった。

約3割の保護者は否定的な回答をしている。その理由は「体育祭など出番が少ないのに開催時間が長い」「学習発表会や体育祭(運動会)を前期・後期一緒に実施するため、学校行事の内容が薄くなった」「環境の変化がない期間が長くなるので、気持ちの切り替えが難しくなるのではと思う」などであった。

保護者は、日常的な異学年交流により、上級生と下級生相互に良い効果があることを感じていることが分かる。

○今後の取組

学校行事や式典については、形式は様々であっても、全児童生徒が関わり合いながら学ぶ良さを実感できるような取組を進めていく。

記述回答

(教育活動(授業、行事等の取組)について、良いと思うことや課題に思うこと)

○考察

良いと思うこととして「好奇心を揺さぶられる教育内容で、自発性を伸ばしてもらえそう」「特にS O S E I祭は、地域と一体になって作り上げ、大いに盛り上がった

た」「行事がいっぱいあり、子どもの学校の様子が見られて良い」「小中一貫校で、全学年一緒に行事ができる」などの意見があった。

課題と思うこととして「せっかく前期と後期で同じ敷地、同じ校舎なのにふれあいや交流が少ない」「運動会を前期課程と後期課程一緒にするのは無理がある」「発表会も運動会も一緒に開催のため、学校行事の内容が薄くなった」などの意見があった。

○今後の取組

今後も、コミュニティ・スクールの仕組みを活かし、地域の方々の協力を得ながらSOSEI学や各教科等の教育内容の充実を図り、「子ども主体の学び」を推進するとともに、義務教育学校のメリットを生かした教育活動を進めていく。

前期課程と後期課程の児童生徒間の交流ができるよう、9年間のカリキュラムを編成・実施している。学校行事のあり方については、全校で行うもの、前期・後期で分けて行うものなど、行事の目的や教育効果、子どもや保護者の意見等を踏まえる中で、カリキュラムを改善していく。

(想青学園が大切にしている『かかわる つながる』を、学園生活の中で実感すること)

○考察

「SOSEI祭などで、児童生徒がみんなで一つの事に取り組む姿や、それに私たち親もかかわることができたこと」「学校行事への参加がオープンであること」

「能登原とんどへの参加や地元企業との関わり」などの意見があった。

○今後の取組

今後も、『かかわる つながる』を大切にされた学校運営・教育活動を進め、保護者に主体的に教育活動に参画していただけるよう取り組む。

(想青学園で学ぶようになって子どもたちが成長したと思われること、子どもたちが努力し克服したこと、その時保護者がされたかかわり〔応援や励まし、教員への相談〕など)

○考察

「課題にしっかり取り組めるようになり、友だちがたくさんでき、自分の気持ちもはっきり言えるようになり、思いやりの気持ちが持てるようになってきている。」

「下級生に発表することによって、自分の意見を分かりやすく表現することができるようになった」「苦手なことにも挑戦するようになった」「上級生は下級生を思いやり、下級生は上級生を敬う態度が自然にできている」などの意見があった。

子どもの成長を温かく見守り、頑張っていることを褒め、励まし、応援して下さっている保護者の姿が伺えた。

(今心配に思われていること、教育委員会や学校に知らせたいこと)

○考察

「学校の特色が外部にしっかり伝わるといい」「先生には、主体的に学ぶ姿勢をフォローしてほしい。無理と言われたことで、自分の意思で進むことができないこと

がある」「先生に言っても分かってくれないと初めから諦めの姿勢になること」などの意見があった。

○今後の取組

学校の特色については、SOSEI学の内容や学校行事、コミュニティ・スクールの活動などを、様々な機会をとらえ、対面で、また、ホームページや学校だよりなどを通じて、積極的に情報を発信していく。

子どもへの関わり、授業の進め方については、改めて、子どもたちが自ら考え、意欲的に学ぶことができるよう、子どもたちの「やりたい」「知りたい」という思いを大切にしながら教育活動を進めていく。

(前の学校よりも学校の規模（集団規模）が大きくなって感じていること)

※9年生の旧内海中生徒の保護者

○考察

「人間関係を築くことが大切」という意見があった。

保護者は、子どもが多様な友だちと関わり、人間関係を築きながら成長している姿を通して、学校規模が大きくなったことを肯定的に捉えている。

(コミュニティ・スクールについて、教育活動を充実させるため、保護者（地域）としてどんなことができると思うか、また子どもたちの学びにどうかかわっていききたいか)

○考察

「学校行事で地域の人と一緒に学校周辺、通学路を清掃するなど、地域参加の親子イベントがあれば、先生、生徒、地域の人とより親密になると思う」「子ども達が安全に学校生活を出来るように地域全体で見守り、道路などの草刈りをし、安全に通学できるように支えたい」「子どもたちの学力向上のため、放課後や土曜日に寺子屋を開く」などの意見があった。

○今後の取組

コミュニティ・スクールは「学校運営協議会」を設置した学校であり、子どもたちがどのような課題を抱えているのか、地域でどのような子どもを育てていくのか、何を実現していくのか、目標やビジョンを共有し、学校・地域・保護者が一体となって子どもたちを育てていくものである。地域とともにある学校づくりを通して、地域の学校への関わりが、理解から協力へ、さらには参画へと膨らみ、子どもや学校が抱える諸課題の解決や地域資源を活用した教育内容の充実などにつながる。多くの保護者や地域の皆さんに学校運営に参画していただき、教育内容の充実を図っていくことができるよう、学校運営協議会でしっかりと議論しながら取り組んでいく。

(ウ) まとめ

開校2年目の昨年度、1回目のアンケート結果を踏まえ、子どもたちが安心して学校生活を送ることができるよう、また、子どもたちが「学びが面白い」と実感できるように、教育委員会と学校が密に連携し、指導主事が学校を継続して訪問するな

ど、授業づくりや個に応じた支援などに取り組んだ。

2回目のアンケート結果では、住んでいる地域に関係なく仲間づくりができてきているとともに、友だち関係がうまくいかないといった子どもには、引き続き、個別の支援が必要であることが分かった。

想青学園は、地域とともにある学校づくりのパイロット校として、義務教育学校のメリットとコミュニティ・スクールの仕組みを活かす中で、「かかわる つながる」ことを大切にされた学校づくりを進めている。独自教科のSOSEI学では、学校運営協議会の委員が学校と地域をつなぎ、内海・沼隈地域の多彩な地域資源を学習素材として、教育内容の充実を図るとともに、地域貢献にもつながる探究学習に取り組んでいる。

また、教職員は、授業実践力を高めるため「広島県叡智学園の社会科ユニットデザインから学ぶ研修」や「STEAM型探究学習の研修」などを受講し、子どもが自ら課題を探究する授業に向けて、教材研究、授業実践、検証、改善等を行っている。

昨年度は、全国から15団体134人の視察があり、学校図書館を始め、人文社会、理科メディアなど、子どもの興味を喚起する場、高性能パソコンや3Dプリンターを設置しているデジタルラボ等の施設に感動し、子どもが立体模型を制作したり、動画編集したりする姿、学校のあらゆる空間で、疑問を出し合いながら意欲的に学んでいる姿を見て、高い評価をいただいている。

教育委員会は、学校とともに、多様な友だちと学び合える環境だからこそ、すべての子どもたちが持っている「やりたい」「知りたい」という思いをより一層大切にしながら、子どもたちが知っていることを使って考えると、分かることがたくさんあるという感覚を授業の中で積み重ねていけるよう、今後も学びを中心に据えた取組を着実に進めていく。

(4) 新市中央中学校の状況

ア 第1回アンケート調査報告後の取組

開校1年目、再編によりめざす姿である「多様性を認め合い、自ら考え、意欲的に学ぶ」ことに向け、地域の方々の温かい協力を得て、特色ある教育を行う中で、子どもたちは、それぞれが努力し、着実に力を付け、成長していった。一方で、学校の取組への要望等が個別具体に出されたことから、学校と連携し、次のように取り組んだ。

(ア) 教育内容の充実

ほとんどの生徒が、授業について肯定的な回答をしていた。否定的な回答をしていた生徒が少数いたため、生徒が安心して発言できる温かい雰囲気での授業づくり、授業者が「引き出す」「広げる」「つなぐ」を大切にした授業づくり、生徒が学び合い、探究し、学びを深めていく授業づくりに取り組んだ。

(主な取組)

- ・教材への理解（単元で付けたい力・単元を貫く問い）と生徒への理解（単元で身に付ける具体的な姿）を深めるための教材研究を行い、課題解決的な学習を進めた。
- ・自分の思いや考えを、相手や場に応じて分かりやすく説明することができる自己表現力を育成できるよう、地域や地元企業と育てたい資質・能力を共有した上で探究活動や職場体験、出前授業などを行った。

(イ) 人間関係づくり

友だち関係が理由で学校が楽しくないと感じている生徒がいたため、子どもたちが日常的にふれあいながら学んでいけるよう、関わり合う場や環境を意図的に作り、学び合う集団づくり、お互いの違いを認め合える仲間づくりに取り組んだ。

(主な取組)

- ・体育大会や文化祭、合唱大会などの学校行事で全校生徒と一緒に活動する、生徒会執行部に旧中学校区の生徒が参加し活動するなど、生徒が関わり合う場、交流する場を様々設けた。
- ・「新市中央中学校の2ページ目（2年目）を自分たちがつくる」という意識をもって、生徒会活動や部活動、行事において、目標や計画・活動を考え、取り組むよう促した。

(ウ) 地域とのつながり

「地域の様々な人の考え方に触れながら成長している」といった意見を踏まえ、子どもたちが地域に出て、体験を通して学ぶ教育活動の充実に取り組んだ。

(主な取組)

- ・企業から新しいサービス開発等のミッションを受け、生徒が協働して解

どであった。

生徒の多くは学校生活を楽しく感じていることが分かる。互いを認め合う温かい学級づくりが進められる中で、子どもたちは伸び伸びと学んでいる。

少数ではあるが「学校が楽しくない」と答えている。その理由は「授業が面白くない」「クラスになじめない」であった。

○今後の取組

学校が楽しくないと感じている生徒には、その理由を踏まえ、子どもや授業の様子を見ながら、対話を大切にされた個別の支援を行っていく。

◆授業について

○考察

9割以上の生徒は「新しいことを知ったり、調べたりすること」や「自分で考えたり、友だちと話し合ったりすること」が楽しい、「分かった・できたと実感すること」があると肯定的な回答をしている。その理由は「新しいことを学ぶのが楽しい」「学び合いの時間に、協力して学習するスタイルがとてもいい」「先生が面白く授業をしてくれるので楽しい」などであった。

学校では、全ての学級で「子ども主体の学びづくり」に向け、友だちと対話し、自分の考えを深めたり広げたりする授業づくりに取り組んでいる。キャリア教育では、生徒が、企業から新しいサービス開発等のミッションを受け、協働して解決策を提案するなど、課題解決学習に取り組んでいる。

子どもたちは、学ぶ過程を通して、授業を楽しく感じたり、「分かった・できた」と実感したりしていることが伺える。

1割弱の生徒が否定的な回答をしている。「学び合いが少なくなっていて、友だちと意見を交流する時間が足りない」「話を聞き、板書を写すだけの授業では興味がわからないので、実践や動画を用いた授業をさらに増やしてほしい」などの理由であった。

○今後の取組

改めて子どもの学ぶ姿を見る中で、教師が一方的に教える授業になっていないか振り返るとともに、学び合いの中で考えを深め、広げる授業、子どもが問いをもち、自ら解決に向かう授業など、子どもが学ぶ喜びを感じられる授業づくりに取り組んでいく。

◆部活動について

○考察

ほとんどの生徒が部活動に参加し、そのうち約9割の生徒が楽しいと答えている。その理由は「本気で取り組んで辛かったことや苦しかったこともあったが、試合で勝てたり、できることが増えたりしたとき、とても楽しかったし、達成感も感じたから」「今までやったことがないことにも興味もてるから」「部活動の友だちと楽しく活動できるから」などであった。

自分がやりたい部活動を、目標に向かって仲間と切磋琢磨しながら取り組む中で、

自己の力やチーム力を向上させ、達成感を味わっている。

少数であるが「練習のメニューがきつい」「真面目にやっている人が少なかったから」などの意見もあった。

○今後の取組

顧問や部活動指導員は、生徒の意見も聞きながら練習内容を検討するなど、生徒が主体的に取り組む、活力ある活動にしていく。

記述回答

((新)新市中央中学校で学ぶようになってから気が付いたこと(変化)、自分でも努力したこと)

○考察

「自分から進んで行動できるようになった」「学び合いや班活動で自分の意見が言えるようになった」「友だちや相談相手が増え、意見の交流も増えた」「勉強に力を入れて取り組むようになった」「地域の行事などにできるだけ参加しようと思った」などと答えている。

多様な人とコミュニケーションを図り、学び合いを通して刺激を受けながら、意欲的に学校生活を送っていることが伺える。

(困っていること)

○考察

「授業についていけない」「少し人間関係に悩んでいる」などと答えている。

○今後の取組

状況を把握し、個別に、又は全体で必要な取組を行っている。引き続き、子どもや教室の様子を見る中で、個に応じた支援を行っていく。

(前の学校のときよりも学校の規模(集団規模)が大きくなって感じていること)

※3年生の旧常金中生徒

○考察

「少し迷うこともあるけど楽しい」「いろいろな人がいて面白い」「自分とは違う意見を聞き、新しい視点が持てた」「人数が増えたので自分と違った意見を持っている人も増え、新しい考えや知識などを身につけることができた」といった意見があった。

多様な友だちと関わりながら、コミュニケーション力や社会性を育てていることが分かる。

(イ) 保護者

○「子どもは学校生活を楽しく過ごしている・どちらかと言えば楽しく過ごしている」 90% (87%)

(学校生活)

○考察

約9割の保護者は「子どもが学校生活を楽しく過ごしている」と回答している。その理由は「友だちとの登下校やクラブ活動などを楽しそうにしている」「学校生活や行事を行うことが楽しいと話す」「学校の役割に積極的に立候補している」「出身小学校以外の友人もたくさん増え、普段の会話の中に数多くの友人の名前が出るようになった」などであった。

約1割の保護者は「子どもが学校生活を楽しく過ごしていない」と回答している。その理由は「勉強が分からない」「学校に行くのがしんどそう」「人間関係がうまくいってない」などであった。

保護者は、子どもから話を聞き、その表情や態度から、楽しく過ごしていると安心されたり、馴染めていないと心配されたりしていることが分かる。

○今後の取組

学校には、スマイルルームなど子どもたちの居場所を作っている。環境に馴染めていない生徒や教室にはいりづらいと感じている生徒には、引き続きそうした場所も利用し、対話をしながら個に応じた支援を行っていく。

記述回答

(教育活動(授業、行事等の取組)について、良いと思うことや課題に思うこと)

○考察

良いと思うこととして「学校行事にみんなが一生懸命取り組んでいる」「地域企業と関わることも多く、また独自の行事もあり、とても良い」「先生方の授業がとても良くて、子どもたちもしっかり発言できていて、意欲的に取り組んでいる」「思考力が磨かれる授業内容だと思う」「グループディスカッションなども、自己表現力、自己アピール力などを培っていく上でとても大切なことだと思う」などの意見があった。

課題と思うこととして「理解できていない生徒に、分かりやすく楽しんで取り組めるような授業をしてほしい」「生徒がもっと自信がつくような取組が必要」「授業で分からないところのフォローを充実させてほしい」などの意見があった。

○今後の取組

引き続き、コミュニティ・スクールの仕組みを活かし、地域や地元企業の協力を得ながら教育内容の充実を図り、「子ども主体の学び」を推進する。

教員は、一人一人の子どものペース、理解度に応じた伴走支援を行うとともに、教材研究を中心とした研修を行い、学びが面白いと実感できる授業づくりを進める。

((新)新市中央中学校になって子どもたちが成長したと思われること、子どもたちが努力し克服したこと、その時保護者がされたかかわり〔応援や励まし、教員への相談〕など)

○考察

「他の地域の子とも関わりが増え、刺激をもらって過ごしていると思う」「引っ込

み思案な性格だが、新しい友だちもでき、体育祭のリーダーになったり、選挙に立候補したりするなど、自分発信で行動できるようになっている」「関わる人数が多い分、個に応じた人との接し方を学んでいる」「再編で生徒人数が増えた分、新しい友だちができ、良い意味で部活や成績でライバルもでき、切磋琢磨している姿が見られる」などの意見があった。

子どもの成長を温かく見守り、頑張っていることを褒め、励まし、応援して下さっている保護者の姿が伺えた。

(今心配に思われていること、教育委員会や学校に知らせたいこと)

○考察

「学校に行けなくなった子どもへの対応を増やして欲しい」「いじめと思わず、きつい言葉、無視などしている子が多い」などの意見があった。

○今後の取組

学校に行きづらいつ感じている生徒には、個に応じた支援を丁寧に行っていく。また、日々の学校生活を通して、互いの良さや違いを認め合い、思いやりのある言動のできる温かい学級・学校づくりに学校全体で取り組んでいく。

(前の学校よりも学校の規模（集団規模）が大きくなって感じていること)

※3年生の旧常金中生徒の保護者

○考察

「小規模校にない多くの人との関わりに魅力がある」「意外とすんなり馴染んだので子どものコミュニケーション力の高さを知ることができた。先生が目も行き届いていてそんなに心配することはなかった」「社会に出ていくうえで、集団行動や人との関わり方を学んでいかなければならないので、人数が多いことはメリットがあると思う」という意見があった。

保護者は、子どもが多様な友だちと関わり、人間関係を築きながら成長している姿を通して、学校規模が大きくなったことを肯定的に捉えている。

(コミュニティ・スクールについて、教育活動を充実させるため、保護者（地域）としてどんなことができると思うか、また子どもたちの学びにどうかかわっていききたいか)

○考察

「地域のイベントに参加したり、行ったことのない場所へ一緒に行ったり、やったことがないことを一緒に積極的に取り組む」「授業に地域の方、保護者が参加できる環境を作れたら、子どもたちも新鮮な気持ちで楽しくできることもあると思う。体験授業によって、将来の目標ができたり、刺激を与えることができたりするのではないか」「学校の負担をあまり増やさないようにすること」「社会との関わりを学ぶため、地域企業としての協力」「部活動種目の得意な地域の方もいると思うので、顧問承諾の上、コーチとして関わってもらえるのはどうか」などの意見があった。

○今後の取組

コミュニティ・スクールは「学校運営協議会」を設置した学校であり、子どもた

ちがどのような課題を抱えているのか、地域でどのような子どもを育てていくのか、何を実現していくのか、目標やビジョンを共有し、学校・地域・保護者が一体となって子どもたちを育てていくものである。地域とともにある学校づくりを通して、地域の学校への関わりが、理解から協力へ、さらには参画へと膨らみ、子どもや学校が抱える諸課題の解決や地域資源を活用した教育内容の充実などにつながる。多くの保護者や地域の皆さんに学校運営に参画していただき、教育内容の充実を図っていくことができるよう、学校運営協議会でしっかりと議論しながら取り組んでいく。

(ウ) まとめ

開校2年目の昨年度、1回目のアンケート結果を踏まえ、子どもたちが安心して学校生活を送ることができるよう、また、子どもたちが「学びが面白い」と実感できるように、教育委員会と学校が連携し、指導主事が学校を訪問するなど、授業づくりに取り組んだ。

2回目のアンケート結果では、住んでいる地域に関係なく仲間づくりができてきているとともに、友だち関係がうまくいかないといった子どもには、引き続き、個別の支援が必要であることが分かった。

新市中央中学校は、「オール新市で日本一の学校をつくろう」を合言葉に、キャリア教育を中心に、地元企業と連携した課題解決学習に取り組んでいる。地元企業の出前授業や職場体験等、社会と触れる体験は、働くことの意義や自分の将来について考える機会となっている。地域の支援をいただきながら、すべての教育活動の中で問題意識を持ち、自ら考え表現する場を大切にしてきたことにより、自己表現力が向上し、学ぶ意欲が高まっている。

また、コミュニティ・スクールの仕組みを活かす中で、4つの小学校と密に連携し、小中の縦のつながりと小学校同士の横のつながりを深めながら、キャリア教育カリキュラム開発など中学校区5校で協議をしながら実践研究を続けている。

教職員は、授業実践力を高めるため「広島県叡智学園の社会科ユニットデザインから学ぶ研修」の受講や中学校区での合同研修などを通し、子どもが自ら課題を探究する授業に向けて、教材研究、授業実践、検証、改善等を行っている。

教育委員会は、学校とともに、多様な友だちと学び合える環境だからこそ、すべての子どもたちが持っている「やりたい」「知りたい」という思いをより一層大切にしながら、子どもたちが知っていることを使って考えると、分かることがたくさんあるという感覚を授業の中で積み重ねていけるよう、今後も学びを中心に据えた取組を着実に進めていく。

(5) 加茂小学校の状況

ア アンケート調査に係る考察及び今後の取組

(ア) 児童

◆学校生活について

○「学校が楽しい・どちらかと言えば楽しい」 95%

◆授業について

○「新しいことを知ったり、調べたりすることが楽しい・どちらかと言えば楽しい」 93%

○「自分で考えたり、友だちと話合ったりすることが楽しい・どちらかと言えば楽しい」 93%

○「『分かった』『できた』と実感することがよくある・どちらかと言えばある」 90%

◆ふるさと学習について

○「ふるさと学習が楽しい・どちらかといえば楽しい」 93%

◆学校生活について

○考察

9割以上の児童は「学校が楽しい」と答えている。その理由は「友だちと話せたり遊んだり、授業が楽しい」「授業で自分が考えたことを言ったり、友だちの意見を聞いたりするのが楽しい」「いろんな人と関わって、いろんな人との関わりが増えていくから」などであった。

環境が大きく変化した旧山野・広瀬学園小の児童については、全員が「楽しい」と回答し、その理由は「友だちが遊ぼうと誘ってくれる」「休み時間に友だちと遊べる」「にぎやかで、友だちがいて楽しい空間だから」「先生や友だちが優しく接してくれて、嫌なことがあったらすぐに駆け寄って心配をしてくれる」であった。

1割弱の児童は「学校が楽しくない」と答え、その理由は「授業や勉強があまり好きじゃないから」「いじわるされるから」などであった。

児童の多くは学校生活を楽しんでいることが分かる。自分の考えや思いを伝えることのできる学級づくり、相手の考えや思いを聞き、相手のことを尊重することができる集団づくりが進められる中で、子どもたちは伸び伸びと学んでいる。

○今後の取組

学校が楽しくないと感じている児童には、その理由を踏まえ、子どもや授業の様子を見ながら、対話を大切にされた個別の支援を行っていく。

◆授業について

○考察

約9割の児童は「新しいことを知ったり、調べたりすること」や「自分で考えたり、友だちと話し合ったりすること」が楽しい、「分かった・できたと実感すること」があると肯定的な回答をしている。その理由は「自分の考えや学習したことをまとめるのが楽しい」「分からなかったことが分かった時が楽しい」「新しい発見がある

ととても面白い」「班で課題について話し合ったり、どんどん新しいことを知ったりすることが楽しい」などであった。

学校では、全ての学級で「子ども主体の学びづくり」に向け、友だちと対話し、自分の考えを深めたり広げたりする授業づくりに取り組んでいる。校区の歴史・文化、産業、自然、人物等を素材に探究的に学習する「ふるさと学習（生活科・総合的な学習の時間）」では、フィールドワークやインタビューを通して地域の人々と交流し、地域を知り、地域のためにできることを考え、実践することに取り組んでいる。

子どもたちは、授業を楽しく感じ、学ぶ過程で「分かった・できた」と実感していることが伺える。

約1割の児童が否定的な回答をしている。「英語の時間を増やしてほしい」「プログラミングの授業を増やしてほしい」などの理由であった。

○今後の取組

改めて、子どもたちの学ぶ姿を見る中で、ふるさと学習や各教科をつなげながら、友だちとの意見の共有によって自分の考えを深められる授業、子どもが問いを持ち、自ら解決に向かう授業など、子どもが学ぶ喜びを感じられる授業づくりに取り組んでいく。

◆ふるさと学習について

○考察

9割以上の児童は「ふるさと学習が楽しい」と答えている。その理由は「いろいろな人と会える」「いろいろな発見があり、自然の景色が見られる」「地域のことや仕事について、いろいろなことを知れて楽しい」「普段みることができないところを見せてもらえた」「山野・広瀬・加茂の地域が一緒になったから、少しでも自分たちの新しいまちのことを知りたいし、他の人にも知ってほしいから」「実際に地域に出かけて自然を感じるができるから」「みんなで意見を出し合ったり、みんなと協力したりして、友だちとの交流が増えていってとても楽しかった」「野外活動や調べ学習、新聞作りなどをしていると福山にはこんなに良いところがあるのかと福山のことについてたくさん知れた」などの意見であった。

子どもたちは、ふるさと学習を通じて、山野・広瀬・加茂地域の多彩な地域資源を活用し、地域の魅力に触れ、自分の思いや考えを発信する活動を通して、地域に愛着を深めていることが伺える。

1割弱の児童が否定的な回答をしている。その理由は「大人になって使わない学習だと思う」「そんなに地域に興味がない」などであった。

○今後の取組

引き続き、地域教材の発掘と実践を積み重ね、子どもたちにとって、面白いと実感できる授業づくりに取り組んでいく。

記述回答

(新しい加茂小学校で学ぶようになってから気が付いたこと(変化)、自分でも努力したこと)

○考察

「苦手なこともがんばってやりきった」「今まで知らなかったことについて納得することが多かったので、新しく学ぶことはすごく大切だと思う」「縦割り班の子たちをまとめられるようになった」「発表をあまりしなかったが、自分を変えようと思い学級委員になるなど、進んで取り組むことができるようになった」などと答えている。

友だちとコミュニケーションを図り、学び合いながら意欲的に学校生活を送っていることが伺える。

(困っていること)

○考察

「周りの人が悪口を言っている」「授業中うるさいから静かにしてほしい」「算数が分からない」などと答えている。

○今後の取組

状況を把握し、個別に、又は全体で必要な取組みを行っている。引き続き、子どもや教室の様子を見る中で、個に応じた支援を行っていく。

(前の学校のときよりも学校の規模(集団規模)が大きくなって(友だちの人数が増えて)、感じていること) ※2年生以上の旧山野・広瀬学園小児童

○考察

「友だちがいっぱいいるから楽しい」「嬉しい。満足」と答えている。

新しい環境にも慣れ、多様な友だちと関わり合い、学び合うことを楽しいと実感している様子が伺える。

(イ) 保護者

○「子どもは学校生活を楽しく過ごしている・どちらかと言えば楽しく過ごしている」 95%

(学校生活)

○考察

9割以上の保護者は「子どもが学校生活を楽しく過ごしている」と回答している。その理由は「毎日帰ってくると、学校でのことを楽しそうに話してくれる」「主体的に学べる授業内容が工夫されていて、子どもが生き生きしている」「学校での役割に本人が意欲的になっている」などであった。

1割弱の保護者は「子どもが学校生活を楽しく過ごしていない」と回答している。その理由は「勉強についていけない」「言葉で相手に伝えたりすることが苦手で積極的ではないので、友だち関係が難しい時がある」などであった。

保護者は、子どもから話を聞き、その表情や態度から、楽しく過ごしていると安心されたり、馴染めていないと心配されたりしていることが分かる。

○今後の取組

友だち関係が難しいと感じている児童には、継続して対話をしながら個に応じた支援を行っていく。

記述回答

(教育活動(授業、行事等の取組)について、良いと思うことや課題に思うこと)

○考察

良いと思うこととして「山野へ課外授業に行くなど、加茂独自の取組があって良い」「子どもたちだけで考えた取組や行事が多く、意見を出す大切さが学べている」「行事で子どもたちに役割を与えている」「教科の枠に捉われず、主体的に学んだり、書く力を育てたりするための学習内容が工夫されている」「縦割り掃除や全校でのレクリエーションなどで、他の学年の子たちと関わることで思いやりのある子になってきた」「先生が児童一人一人にしっかり向き合っている」などの意見があった。

課題と思うこととして「子ども主体という活動ゆえ、子ども任せになりすぎているところも感じる」「いい活動をたくさんしていると思うが、それが保護者にあまり伝わっていない」「フリースタイルプロジェクトでは、児童に投げっぱなしの印象を受けた」「算数の授業が分からないから、クラスを少人数にしてほしい」などの意見があった。

○今後の取組

今後も、コミュニティ・スクールの仕組みを活かし、地域の方々の協力を得ながらふるさと学習や各教科等の教育内容の充実を図り、「子ども主体の学び」を進めていく。

加茂小学校では自分の興味・関心を活かして、学ぶ内容や学び方、学びの計画を自分で決めて学ぶ「フリースタイルプロジェクト」を実践し、子どもたちが持っている「やりたい、知りたい」という意欲を大事にした子ども主体の学びづくりが進んできている。子どもたちに任せた活動にとどまっていないか、子どもたちが知的好奇心や意欲を発揮できているかを常に検証しながら実践していく。

また、学校の取組については、様々な機会をとらえ、対面で、また、ホームページや学校だよりなどを通じて、積極的に情報を発信していく。

(ふるさと学習について感じていること)

○考察

「地域の方と触れ合いながら地元のことを知る機会は、とてもいい刺激になっている」「家庭では経験させてあげられない様々な事を経験でき、小学校教育の有り難さや重要性を感じる」「一方的に詰め込まれる学習ではなくて、自分の中にある『なんで?』からの学びをできる機会がある事は、とっても素敵なことだと思う」「子どもたちにあまり意義が伝わっていない、子どもに響いていない感じが少し残念」などの意見があった。

○今後の取組

今後も、コミュニティ・スクールとして地域とともにある学校づくりを進め、ふ
るさと学習の内容を充実させながら、子どもたちが、地域の魅力に触れ、地域の良
さや課題に気付き、課題解決に向けて自ら発信する力を育てていく。

(新しい加茂小学校になって子どもたちが成長したと思われること、子どもたちが努力
し克服したこと、その時保護者がされたかかわり（応援や励まし、教員への相談）な
ど)

○考察

「自分で考えて何かやってみようと思うことが増えた」「山野から通学している友
だちをよく気にかけている」「ちょっとしたことでも疑問を抱いて調べるようにな
り成長を感じた。すぐに口出しするのではなく、考える時間をつくっている」「自分
で考えて、積極的に先生や友達と話し合えるようになった。」「加茂町以外のこと
も学習することができ、視野が広がった」などの意見があった。

子どもの成長を温かく見守り、頑張っていることを褒め、励まし、応援してくだ
さっている保護者の姿が伺えた。

(今心配に思われていること、教育委員会や学校に知らせたいこと)

○考察

「学習内容やそのやり方について、分からない時は分からないから教えて欲しい
と言える環境と対応ができる学校がいいと思う」「子どもの自己肯定感、自己効力感
を高めたいが、うまくいかないことと、子どもができていない自分を責めているこ
とが心配」「友達づくり少し悩んでいるように思う」などの意見があった。

○今後の取組

教材研究に基づいた「任せる、考える・読む・書く」授業を実践し、自分の考え
や思いなどを自分の言葉や自分の文章で表現できる子どもを育てていく。また、友
だちづくりがうまくいかないと感じている児童には、個に応じた支援を丁寧に行っ
ていく。

(コミュニティ・スクールについて、教育活動を充実させるため、保護者（地域）とし
てどんなことができると思うか、また子どもたちの学びにどうかかわっていきたいか)

○考察

「学校が大切にしている関わりや学習のめあてなどを保護者が理解して、子ども
の力を学校と家庭とで育てていけるようにしたい」「地域の活動やイベントなど子
どもの興味があるものに積極的に参加していきたい」「PTA活動を通して学校と
積極的に関わっていききたい」などの意見があった。

○今後の取組

コミュニティ・スクールは「学校運営協議会」を設置した学校であり、子どもた
ちがどのような課題を抱えているのか、地域でどのような子どもを育てていくのか、
何を実現していくのか、目標やビジョンを共有し、学校・地域・保護者が一体とな

って子どもたちを育てていくものである。地域とともにある学校づくりを通して、地域の学校への関わりが、理解から協力へ、さらには参画へと膨らみ、子どもや学校が抱える諸課題の解決や地域資源を活用した教育内容の充実などにつながる。多くの保護者や地域の皆さんに学校運営に参画していただき、教育内容の充実を図っていくことができるよう、学校運営協議会でしっかりと議論しながら取り組んでいく。

(ウ) まとめ

子どもたちは、再編により目ざす姿である「多様性を認め合い、自ら考え、意欲的に学ぶ」ことに向け、地域の方々の温かい協力を得て、特色ある教育を行う中で、それぞれが努力し、着実に力を付け、成長している。

友だち関係がうまくいかないといった子どももいるが、対話を大切にした個別の支援を行いながら、仲間づくりを進めている。

保護者には、授業参観や運動会など行事等を通して、積極的に活動している子どもたちの姿を見ていただき、試行錯誤しながら取り組んでいる子どもたちを応援していただいている。

加茂小学校は、加茂中学校とともに幼保小中学びの接続カリキュラム開発のパイロット校として、学びの基盤となる言葉と数の獲得に向けて対話的・体験的に学ぶ授業づくり、児童生徒の興味関心、持っている知識や経験を活かして学ぶ授業づくりに取り組んでいる。すべての教育活動の中で問題意識を持ち、自ら考え表現する場を大切にしてきたことにより、コミュニケーション力が向上し、学ぶ意欲が高まっている。

また、ふるさと学習では、コミュニティ・スクールの仕組みを活かす中で、山野・広瀬・加茂の多彩な地域資源を学習素材として教育内容の充実を図るとともに、地域活性化にもつながる探究学習に取り組んでいる。

教職員は、授業実践力を高めるため中学校区での合同研修などを通し、子どもが自ら課題を探究する授業に向けて、教材研究、授業実践、検証、改善等を行っている。

教育委員会は、学校とともに、多様な友だちと学び合える環境だからこそ、すべての子どもたちが持っている「やりたい」「知りたい」という思いをより一層大切にしながら、子どもたちが知っていることを使って考えると、分かることがたくさんあるという感覚を授業の中で積み重ねていけるよう、今後も学びを中心に据えた取組を着実に進めていく。

(6) 加茂中学校の状況

ア アンケート調査に係る考察及び今後の取組

(ア) 生徒

◆学校生活について
○「学校が楽しい・どちらかと言えば楽しい」 90%
◆授業について
○「新しいことを知ったり、調べたりすることが楽しい・どちらかと言えば楽しい」 86%
○「自分で考えたり、友だちと話合ったりすることが楽しい・どちらかと言えば楽しい」 93%
○「『分かった』『できた』と実感することがよくある・どちらかと言えばある」 90%
◆ふるさと学習について
○「ふるさと学習が楽しい・どちらかといえば楽しい」 80%
◆部活動について
○「部活動に参加している」 90%
○「部活動は楽しい・どちらかと言えば楽しい」 90%

◆学校生活について

○考察

約9割の生徒は「学校が楽しいと答えている。その理由は「友だちと遊んだり話したりできているから」「先生や授業が面白い」「部活が楽しい」「友だちと一緒に学習し、成長し合える過ごしやすい環境だから」「先生とも気軽に話せ、勉強に関しての質問も快く回答してくれて嬉しい」「クラスの人と意見の共有ができる」などであった。

約1割の生徒は「学校が楽しくない」と答えている。その理由は「班活動が多いうえ、やらない人がたくさんいる」「苦手な人がいる」「人が多いと息が詰まる」などであった。

生徒の多くは学校生活を楽しく感じていることが分かる。ともに学び合い、高め合う学校づくり、疑問が生まれ、多様な学びを楽しめる授業づくりが進められる中で、子どもたちは伸び伸びと学んでいる。

○今後の取組

学校が楽しくないと感じている生徒に対しては、その理由を踏まえ、子どもや授業の様子を見ながら、傾聴と対話を大切にされた個別の支援を行っていく。

◆授業について

○考察

約9割の生徒は「新しいことを知ったり、調べたりすること」や「自分で考えたり、友だちと話し合ったりすること」が楽しい、「分かった・できたと実感すること」があると肯定的な回答をしている。その理由は「楽しい。グループワークを積極的

にしたい」「話し合いのある授業がよい」などであった。

学校では、全ての学級で「子ども主体の学びづくり」に向け、友だちと対話し、自分の考えを深めたり広げたりする授業づくりに取り組んでいる。校区の歴史・文化、産業、自然、人物等を素材に探究的に学習する「ふるさと学習（総合的な学習の時間）」では、フィールドワークやインタビューを通して地域の人々と交流し、地域を知り、地域のためにできることを考え、実践することに取り組んでいる。

子どもたちは、授業を楽しく感じ、学ぶ過程で「分かった・できた」と実感したりしていることが伺える。

約1割の生徒が否定的な回答をしている。「ふざけている生徒にはしっかり注意してほしい」「もっと興味がわく面白い授業をしてほしい」などの理由であった。

○今後の取組

改めて、ふるさと学習や各教科、行事、日常生活等のつながりを意識しつつ、友だちの意見と自らの意見とを出し合うことで、新しい考えを見出したり、多様な考えや価値観があることに気付いたりできる授業づくりに取り組んでいく。そうした取組の実践を通して、子どもが「なぜ？・どうして？」などの問いを持ち、解決に向けて学びを深める中で、「わかった！・できた！・なるほど！」を実感し、学びに喜びを感じられる授業を実現していく。

◆ふるさと学習について

○考察

約8割の生徒は「ふるさと学習が楽しい」と答えている。その理由は「加茂・広瀬・山野の魅力について知ることができるから」「自分の知らないことがどんどん増えてきておもしろいから」「地域のことを調べたり、友だちと意見を交流したり、地域のためになることを考えたりするのが楽しかった」「地域について学び、自分のアイデアを役に立たせることができないうかがえることが楽しい」「いろんな地域の方と関わり合える」「実際に見たり、体験したりした方が記憶に残る」などの意見であった。

子どもたちは、ふるさと学習を通じて、山野・広瀬・加茂地域の多彩な地域資源を活用し、地域の魅力に触れ、自分の思いや考えを発信する活動を通して、地域に愛着を深めていることが伺える。

約2割弱の生徒が否定的な回答をしている。その理由は「興味が湧いてこないから」「知らないことが多く、全く内容が分からない時があるから」などであった。

○今後の取組

引き続き、地域教材の発掘と開発を重ね、地域に貢献しようとする子どもたちの育成と地域発展につながる教育活動を推進していく。

子どもたちが、地域の方々との対話を通して地域の困り感や課題などに気づき、その解消や改善に向けて自分たちにできることを見つけ、実践していく取組を進めていく。

◆部活動について

○考察

約9割の生徒が部活動に参加し、そのうち約9割の生徒が楽しいと答えている。その理由は、「みんなで仲良く楽しく活動できている」「友だちと切磋琢磨しながら一生懸命に取り組めたから」などであった。

目標に向かって仲間と切磋琢磨しながら取り組む中で、自己の力やチーム力を向上させ、達成感を味わっている。

否定的な回答の中に「上下関係が厳しい」「みんな本気でしないから」などの意見もあった。

○今後の取組

顧問は、生徒の意見も聞きながら練習内容を工夫したり、他校との練習試合を組んだりするなど、生徒が主体的に参加したいと感じる、活力ある活動にしていく。

記述回答

(新しい加茂中学校で学ぶようになってから気が付いたこと(変化)、自分でも努力したこと)

○考察

「広瀬・山野・加茂地域のことを知ることが多くなった」「友だちとの関わりを大切にしながら、意見を共有して学習に取り組むことを努力した」「勉強に一生懸命に取り組むことができるようになった」「協調性の重要性、継続をすることの大切さを学んだ」「人との関わりが増えたことにより、挨拶などのコミュニケーションを取るようになった」などと答えている。

多様な人とコミュニケーションを図り、学び合いを通して刺激を受けながら、意欲的に学校生活を送っていることが伺える。

(困っていること)

○考察

「一部の人が自分勝手な行動をし、先生の話を受けない」「友だち関係」などと答えている。

○今後の取組

生徒と教職員の信頼関係を築くことに努めるとともに、子どもたちの状況を丁寧に把握し、個別又は全体に必要な取組を行っている。引き続き、子どもや教室の様子を見る中で、個に応じた支援を行っていく。

(イ) 保護者

○「子どもは学校生活を楽しく過ごしている・どちらかと言えば楽しく過ごしている」 82%

(学校生活)

○考察

8割以上の保護者は「子どもが学校生活を楽しく過ごしている」と回答し、その理由は「部活も学校も楽しいと言って通っているから」「学校での出来事など話す内容が楽しそうだから」「部活動を頑張っている」などであった。

2割弱の保護者は「子どもが学校生活を楽しく過ごしていない」と回答し、その理由は「気の合う友だちがおらず、周りに馴染めずに学校生活は楽しくないと言っている」「部活に活気がない」などであった。

保護者は、子どもから話を聞き、その表情や態度から、楽しく過ごしていると安心されたり、馴染めていないと心配されたりしていることが分かる。

○今後の取組

友だち関係が難しいと感じている生徒には、対話をしながら個に応じた支援を行っている。引き続き、子どもや教室の様子を見的过程中で、個に応じた支援を行っていく。

記述回答

(教育活動（授業、行事等の取組）について、良いと思うことや課題に思うこと)

○考察

良いと思うこととして「行事が豊富で、積極的に取り組んでいる」「教員が、生徒の意思を尊重してくれる」「ただ勉強するのではなく、将来自立していけるように勉強する意味を先生がきちんと話してくださること」「分からない子がいたら友だち同士教え合える環境」「加茂小学校と密に連絡を取りながら活動に取り組んでいる」などの意見があった。

課題と思うこととして「宿題がないことで家庭学習の習慣づけにならない」「理解度で授業クラスを分ける、苦手教科を克服するための時間を設ける、などを考えてほしい」などの意見があった。

○今後の取組

今後も、コミュニティ・スクールの仕組みを活かし、地域の方々の協力を得ながらふるさと学習や各教科等の教育内容の充実を図り、「子ども主体の学び」を進めていく。

宿題は、一斉に出したり、子どもの自主性に任せたりすることを組み合わせていく。家庭学習の仕方や計画的に学びを進める方法を交流する機会を設けるなど、生徒が自らの学びを調整する力を付けられるよう取り組んでいく。

継続して個別の学習支援も行っている。一人一人の学習ペースなどを見ながら、必要な支援を行っていく。

(ふるさと学習について、感じていること)

○考察

「色々な地域と触れ合い学んでいて、楽しく学習ができています」「地域の歴史を学び、郷土愛を感じる」「普段の勉強とは離れた体験などは、思い出や記憶に残って良

い」「子ども達にあまり浸透してないような感じがする」などの意見があった。

○今後の取組

今後も、コミュニティ・スクールとして地域とともにある学校づくりを進め、ふるさと学習の内容を充実させながら、子どもたちが、地域に愛着を持ち、学校と地域とのつながりを大切にしながら、自己や地域の課題解決に向けて自ら行動できる力を育てていく。

(新しい加茂中学校になって子どもたちが成長したと思われること、子どもたちが努力し克服したこと、その時保護者がされたかかわり（応援や励まし、教員への相談）など)

○考察

「はっきり自分の意見を言えるようになり、学校の出来事もよく話してくれる」「切り替えが早く出来るようになり、自分から頑張ろうと色々チャレンジしている姿がみられる」「小学校と違い中学校という1つ大きくなった社会へ進んだ事で、周りへの配慮や関わりを考えて行動できてきたと感じている。日ごろから話を聞き、アドバイスをし、見守る。子どもが自ら考え決めていくことを一番に考え支えている」などの意見があった。

子どもの成長を温かく見守り、頑張っていることを褒め、励まし、応援して下さっている保護者の姿が伺えた。

(今心配に思われていること、教育委員会や学校に知らせたいこと)

○考察

「学力の低下、テスト勉強の仕方、進路」「部活動の時間が少なく、うまくなりたいたいという気持ちになれていない」「将来の夢や仕事がたくさん思い描け、自身の目標を思い描け、一人ひとりが自信を持てるよう、やる気を引き出してもらいたい」などの意見があった。

○今後の取組

教材研究と授業実践を繰り返し、子どもたちがともに学び合い、高め合うことで、「なぜ？どうして？」が「分かった！できた！なるほど！」になる授業、教師も生徒も「面白い」と感じられる授業づくりに取り組む。また、顧問は、生徒の意見も聞きながら練習内容を検討するなど、生徒が主体的に取り組む、活力ある活動にしていく。

(教育活動を充実させるため、保護者（地域）としてどんなことができると思うか、また子どもたちの学びにどうかかわっていききたいか)

○考察

「地域の行事に参加したい」「部活などに関わりたい」「学校以外での体験、経験をさせたい」「進路指導の一環として、色々な職業の大人がどんな仕事をしているか、仕事を選択したきっかけなどを伝える講義を行う」「課題に対する話し合い（熟議）」などの意見があった。

○今後の取組

コミュニティ・スクールは「学校運営協議会」を設置した学校であり、子どもたちがどのような課題を抱えているのか、地域でどのような子どもを育てていくのか、何を実現していくのか、目標やビジョンを共有し、学校・地域・保護者が一体となって子どもたちを育てていくものである。地域とともにある学校づくりを通して、地域の学校への関わりが、理解から協力へ、さらには参画へと膨らみ、子どもや学校が抱える諸課題の解決や地域資源を活用した教育内容の充実などにつながる。多くの保護者や地域の皆さんに学校運営に参画していただき、教育内容の充実を図っていくことができるよう、学校運営協議会でしっかりと議論しながら取り組んでいく。

(ウ) まとめ

子どもたちは、再編により目ざす姿である「多様性を認め合い、自ら考え、意欲的に学ぶ」ことに向け、地域の方々の温かい協力を得て、特色ある教育を行う中で、それぞれが努力し、着実に力を付け、成長している。

友だち関係がうまくいかないといった子どももいるが、対話を大切にした個別の支援を行いながら、仲間づくりを進めている。

保護者には、授業参観や体育祭など行事等を通して、積極的に活動している子どもたちの姿を見ていただき、試行錯誤しながら取り組んでいる子どもたちを応援していただいている。

加茂中学校は、加茂小学校とともに、パイロット校として幼保小中の学びをつなぐカリキュラム開発をしている。全ての教科等の基盤となる言葉と数の獲得に向けて、小中の教職員が互いの授業を参観しながら子どもの学ぶ姿を共有し、対話的・体験的に学ぶ授業、子どもの興味関心、持っている知識や経験を活かして学ぶ授業づくりに取り組んでいる。

また、ふるさと学習では、コミュニティ・スクールの仕組みを活かす中で、山野・広瀬・加茂の多彩な地域資源を学習素材として教育内容の充実を図るとともに、地域活性化にもつながる探究学習に取り組んでいる。

教職員は、授業実践力を高めるため「教科の専門性パワーアップ研修」や中学校区での合同研修などを通じ、子どもが自ら課題を探究する授業に向けて、教材研究、授業実践、検証、改善等を行っている。

教育委員会は、学校とともに、多様な友だちと学び合える環境だからこそ、すべての子どもたちが持っている「やりたい」「知りたい」という思いをより一層大切にしながら、子どもたちが知っていることを使って考えると、分かることがたくさんあるという感覚を授業の中で積み重ねていけるよう、今後も学びを中心に据えた取組を着実に進めていく。

3 福山市立学校児童数及び生徒数について

(1) 小学校(69校)

2024年(令和6年)5月1日現在

校番	校名	児童数(人)														学級数									
		通常学級							特別支援学級							合計	通常学級							特別支援学級	合計
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
1	東	23	36	42	48	40	51	240	6	7	2	4	3	4	26	266	1	2	2	2	2	2	11	4	15
2	西	58	55	60	59	60	67	359	3	4	5	5	10	7	34	393	2	2	2	2	2	2	12	8	20
3	南	39	38	34	49	53	53	266	4	4	2	0	4	4	18	284	2	2	1	2	2	2	11	3	14
4	霞	34	32	35	41	33	44	219	3	3	6	7	3	7	29	248	1	1	1	2	1	2	8	4	12
5	川口	64	76	83	82	92	76	473	7	11	3	3	4	1	29	502	2	3	3	3	3	3	17	6	23
6	手城	74	63	72	66	80	83	438	8	6	9	9	15	10	57	495	3	2	3	2	3	3	16	9	25
7	深津	75	61	71	85	71	72	435	3	7	3	4	5	2	24	459	3	2	3	3	3	2	16	4	20
8	樹徳	71	62	77	79	74	81	444	6	9	6	4	2	3	30	474	3	2	3	3	3	3	17	5	22
9	泉	31	23	34	35	46	52	221	2	4	9	9	6	2	32	253	1	1	1	1	2	2	8	5	13
10	旭	44	27	24	44	44	27	210	1	3	4	3	5	3	19	229	2	1	1	2	2	1	9	3	12
11	光	56	64	55	59	56	76	366	9	5	4	7	4	7	36	402	2	2	2	2	2	2	12	5	17
12	引野	22	27	37	36	44	47	213	7	0	7	3	6	4	27	240	1	1	2	2	2	2	10	4	14
13	蔵王	25	21	14	28	23	26	137	5	5	0	3	3	3	19	156	1	1	1	1	1	1	6	3	9
14	千田	77	85	90	84	89	82	507	13	17	12	15	15	12	84	591	3	3	3	3	3	3	18	13	31
15	御幸	122	122	141	134	122	146	787	17	10	11	11	15	13	77	864	4	4	5	4	4	4	25	12	37
16	津之郷	52	43	44	42	44	36	261	4	3	4	2	4	0	17	278	2	2	2	2	2	1	11	3	14
17	赤坂	37	42	33	42	40	34	228	0	6	6	4	7	2	25	253	2	2	1	2	2	1	10	4	14
18	瀬戸	73	64	74	64	78	69	422	9	12	8	9	9	2	49	471	3	2	3	2	3	2	15	7	22
19	熊野	18	7	16	9	12	15	77	0	0	0	0	2	0	2	79	1	1	1	1	1	1	6	1	7
20	水呑	107	110	116	131	110	124	698	10	11	10	7	2	5	45	743	4	4	4	4	4	4	24	6	30
21	箕島	20	14	18	19	20	23	114	2	1	3	3	2	1	12	126	1	1	1	1	1	1	6	2	8
22	高島	29	20	20	22	17	18	126	0	3	1	2	1	6	13	139	1	1	1	1	1	1	6	3	9
25	大津野	47	60	50	56	53	54	320	5	8	7	11	6	6	43	363	2	2	2	2	2	2	12	6	18
26	坪生	86	93	72	104	87	86	528	12	9	11	4	6	3	45	573	3	3	3	3	3	3	18	7	25
27	春日	59	46	57	41	54	74	331	3	4	2	3	6	1	19	350	2	2	2	2	2	2	12	4	16
28	神村	54	38	54	51	37	43	277	12	10	9	5	6	8	50	327	2	2	2	2	2	2	12	7	19
29	本郷	25	24	18	29	26	17	139	6	4	2	1	2	3	18	157	1	1	1	1	1	1	6	4	10
32	松永	97	71	108	92	100	93	561	13	15	15	7	12	4	66	627	3	3	4	3	3	3	19	10	29
33	柳津	18	13	14	24	11	24	104	2	1	5	2	2	5	17	121	1	1	1	1	1	1	6	3	9
34	金江	18	14	24	14	19	13	102	1	0	0	2	0	0	3	105	1	1	1	1	1	1	6	2	8
35	藤江	12	8	14	9	18	10	71	0	3	1	0	1	1	6	77	1	1	1	1	1	1	6	2	8
36	伊勢丘	55	53	58	54	67	77	364	9	3	6	6	7	5	36	400	2	2	2	2	2	2	12	6	18
37	曙	56	47	49	61	58	81	352	2	11	9	7	7	4	40	392	2	2	2	2	2	3	13	6	19
38	多治米	71	63	77	79	80	67	437	7	9	13	8	7	8	52	489	3	2	3	3	3	2	16	7	23
39	旭丘	41	33	32	44	28	41	219	1	3	5	3	4	4	20	239	2	1	1	2	1	2	9	3	12
40	有磨	7	9	17	14	13	15	75	1	2	1	0	1	0	5	80	1	1	1	1	1	1	6	1	7
41	福相	17	14	23	19	23	27	123	2	3	5	5	3	2	20	143	1	1	1	1	1	1	6	3	9
46	宜山	26	43	39	37	58	50	253	2	4	3	5	3	2	19	272	1	2	2	2	2	2	11	4	15

校番	校名	児童数(人)														学級数										
		通常学級							特別支援学級							合計	通常学級							特別支援学級	合計	
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計			
47	駅家	115	101	132	115	124	127	714	8	8	18	9	13	5	61	775	4	3	4	4	4	4	23	8	31	
49	桜丘	25	29	26	25	29	27	161	2	2	0	1	3	2	10	171	1	1	1	1	1	1	6	2	8	
50	緑丘	69	89	103	95	104	100	560	9	7	14	8	4	5	47	607	2	3	3	3	3	3	17	7	24	
51	長浜	19	24	27	22	17	19	128	1	0	0	3	2	1	7	135	1	1	1	1	1	1	6	2	8	
53	西深津	57	37	46	45	46	56	287	6	4	1	4	4	2	21	308	2	2	2	2	2	2	12	3	15	
54	野々浜	22	32	27	25	26	26	158	0	3	0	3	1	2	9	167	1	1	1	1	1	1	6	2	8	
55	幕山	40	42	35	36	45	29	227	5	4	4	9	2	7	31	258	2	2	1	2	2	1	10	5	15	
56	久松台	38	31	38	46	47	45	245	2	2	4	3	3	3	17	262	2	1	2	2	2	2	11	3	14	
57	新涯	94	103	119	118	124	138	696	12	14	14	9	9	12	70	766	3	3	4	4	4	4	22	11	33	
58	山手	41	53	44	44	39	46	267	2	10	3	13	8	1	37	304	2	2	2	2	2	2	12	6	18	
59	日吉台	41	28	51	39	57	39	255	7	2	5	6	5	3	28	283	2	1	2	2	2	1	10	4	14	
60	川口東	53	43	38	50	48	52	284	5	2	2	5	3	3	20	304	2	2	2	2	2	2	12	3	15	
61	駅家西	49	43	45	52	60	55	304	10	8	10	9	5	3	45	349	2	2	2	2	2	2	12	8	20	
62	大谷台	9	12	23	14	24	18	100	0	1	4	0	3	0	8	108	1	1	1	1	1	1	6	2	8	
63	明王台	23	23	22	24	22	27	141	0	6	4	4	3	1	18	159	1	1	1	1	1	1	6	3	9	
66	常金丸	8	7	17	20	15	16	83	0	0	0	2	5	3	10	93	1	1	1	1	1	1	6	2	8	
67	網引	36	24	30	36	31	37	194	7	5	3	2	3	2	22	216	2	1	1	2	1	1	8	4	12	
68	新市	26	26	19	30	38	30	169	4	4	6	5	4	0	23	192	1	1	1	1	2	1	7	4	11	
69	戸手	42	50	42	47	68	68	317	5	6	9	6	4	1	31	348	2	2	2	2	2	2	12	4	16	
73	山南	8	13	15	17	13	15	81	1	4	0	1	3	0	9	90	1	1	1	1	1	1	6	2	8	
74	神辺	75	90	102	80	89	67	503	14	10	16	10	13	10	73	576	3	3	3	3	3	2	17	10	27	
75	竹尋	15	13	9	18	19	17	91	0	2	2	3	1	0	8	99	1	1	1	1	1	1	6	2	8	
76	御野	62	59	66	53	51	60	351	7	2	6	7	6	5	33	384	2	2	2	2	2	2	12	5	17	
77	湯田	135	135	126	148	142	131	817	13	10	13	19	12	4	71	888	4	4	4	5	5	4	26	10	36	
78	中条	20	15	14	15	17	14	95	0	8	2	1	2	1	14	109	1	1	1	1	1	1	6	2	8	
80	道上	110	86	97	98	110	89	590	5	9	7	4	8	6	39	629	4	3	3	3	4	3	20	6	26	
81	遣芳丘	45	53	41	56	56	52	303	7	19	18	7	12	11	74	377	2	2	2	2	2	2	12	10	22	
82	駅家北	55	55	52	51	57	71	341	6	8	10	10	9	7	50	391	2	2	2	2	2	2	12	7	19	
83	常石とむに 学園 (イエロープラン 教育校)	27	22	24	28	21	13	135	4	6	4	2	2	6	24	159	1	1	1	1	1	1	6	3	9	
84	広瀬学 園 (特認校)	5	6	4	3	5	8	31	1	0	2	0	5	1	9	40	1	1	1	1	1	1	6	2	8	
85	加茂	82	85	106	84	103	96	556	13	16	15	10	9	10	73	629	3	3	4	3	3	3	19	11	30	
	総計	3,286	3,150	3,436	3,520	3,627	3,662	20,681	353	402	405	358	366	271	2,155	22,836	132	124	134	137	139	130	796	342	1,138	
昨年度か らの増減	85	△309	△100	△105	△2	△242	△673		1	11	49	△20	63	11	115	△558	7.0	△9.0	△3	△2	13.0	△5.0	1	12	13	

(2) 中学校 (30校)

2024年(令和6年)5月1日現在

校番	校名	生徒数(人)									学級数					
		通常学級				特別支援学級				合計	通常学級				特別支援学級	合計
		1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計		1年	2年	3年	計		
1	東	138	152	124	414	10	9	8	27	441	4	4	4	12	4	16
2	城北	213	227	222	662	8	11	8	27	689	6	6	6	18	7	25
3	城南	224	239	242	705	13	15	17	45	750	6	6	7	19	7	26
4	鷹取	69	94	77	240	4	2	2	8	248	2	3	2	7	3	10
5	城東	128	131	143	402	11	10	5	26	428	4	4	4	12	4	16
6	幸千	212	210	193	615	9	6	16	31	646	6	6	5	17	5	22
7	済美	148	109	110	367	8	8	9	25	392	4	3	3	10	4	14
8	向丘	127	113	116	356	4	3	4	11	367	4	3	3	10	2	12
11	鳳	94	93	107	294	6	3	6	15	309	3	3	3	9	3	12
12	培遠	113	115	81	309	4	4	7	15	324	3	3	3	9	3	12
13	大成館	120	122	123	365	14	11	8	33	398	3	4	4	11	6	17
14	松永	102	113	112	327	8	9	3	20	347	3	3	3	9	3	12
15	精華	31	33	21	85	2	5	2	9	94	1	1	1	3	2	5
16	中央	82	96	104	282	4	3	9	16	298	3	3	3	9	3	12
17	芦田	37	43	39	119	3	5	1	9	128	1	2	1	4	2	6
21	駅家	106	101	124	331	14	2	6	22	353	3	3	4	10	3	13
22	誠之	176	195	178	549	13	10	11	34	583	5	5	5	15	6	21
23	城西	73	90	72	235	6	3	1	10	245	2	3	2	7	2	9
24	大門	117	106	101	324	4	11	8	23	347	3	3	3	9	4	13
25	一ツ橋	98	64	87	249	4	3	2	9	258	3	2	3	8	2	10
26	東朋	150	146	145	441	13	11	6	30	471	4	4	4	12	5	17
27	駅家南	157	166	141	464	3	6	6	15	479	4	5	4	13	3	16
31	福山	118	119	120	357	0	0	0	0	357	3	3	3	9	0	9
33	至誠	27	23	27	77	3	1	3	7	84	1	1	1	3	2	5
34	神辺	190	219	203	612	15	9	5	29	641	5	6	6	17	4	21
35	神辺東	78	76	79	233	3	2	1	6	239	2	2	2	6	2	8
36	神辺西	130	105	94	329	3	2	5	10	339	4	3	3	10	2	12
37	新市中央	140	148	162	450	11	4	8	23	473	4	4	5	13	4	17
38	広瀬学園 (特認校)	13	13	11	37	2	2	3	7	44	1	1	1	3	2	5
39	加茂	90	98	92	280	9	4	11	24	304	3	3	3	9	4	13
	総計	3,501	3,559	3,450	10,510	211	174	181	566	11,076	100	102	101	303	103	406

昨年度からの増減	△ 55	127	△ 74	△ 2	33	△ 15	12	30	28	△ 1	4	△ 3	0	4	4
----------	------	-----	------	-----	----	------	----	----	----	-----	---	-----	---	---	---

(3) 義務教育学校 (2校)

2024年(令和6年)5月1日現在

校番	校名	児童数(人)													学級数												
		通常学級						特別支援学級						合計	総計	通常学級						特別支援学級	合計	総計			
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	1年	2年	3年	4年	5年			6年	計	1年	2年	3年	4年				5年	6年	計
1	軈の浦学園	8	19	18	21	22	14	102	2	1	4	2	4	2	15	117	200	1	1	1	1	1	1	6	3	9	15
		25	24	25				74	4	4	1				9	83		1	1	1				3	3	6	
2	想青学園	39	51	61	50	48	66	315	4	8	5	6	2	3	28	343	561	2	2	2	2	2	2	12	5	17	27
		68	53	84				205	5	3	5				13	218		2	2	3				7	3	10	

(4) 高等学校 (1校)

2024年(令和6年)5月1日現在

校名	生徒数(人)				学級数			
	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計
福山	202	196	194	592	6	6	6	18
昨年度からの増減	2	1	2	3	0	0	0	0

【参考】

○総数及び昨年度からの増減(小学校・義務前期 71校, 中学校・義務後期 32校)

校名	児童数(人)													学級数										
	通常学級						特別支援学級						合計	通常学級						特別支援学級	合計			
1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	1年	2年	3年	4年	5年	6年		計	1年	2年	3年	4年	5年			6年	計	
小・義務(前期)	3,333	3,220	3,515	3,591	3,697	3,742	21,098	359	411	414	366	372	276	2,198	23,296	135	127	137	140	142	133	814	350	1,164
昨年度からの増減	62	△318	△91	△103	△11	△239	△700	△1	11	49	△18	64	8	113	△587	7	△9	△3	△2	13	△5	1	12	13
中・義務(後期)	3,594	3,636	3,559				10,789	220	181	187				588	11,377	103	105	105				313	109	422
昨年度からの増減	△37	94	△48				9	35	△14	8				29	38	△1	3	△2				0	3	3

4 福山100NEN教育9th yearの取組について

(1) 基本的な考え方

「福山100NEN教育」の4本の柱「主体的・対話的で深い学び、多様な学びの場の充実、学びをつくる教職員研修、元気・笑顔で学び続ける教職員」に基づき、学びを中心に据えた取組を着実に進め、学力（認知・非認知能力）※1の向上を図る。

※1 学力の三要素…「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」学校教育法第30条第2項

(2) 現状

この間、全ての学校で、教師が教え込む授業から子どもたちが自ら考え学ぶ授業への転換を図り、校長を中心に教職員一人一人が、従来の価値観を問い直しながら、「子ども主体の学び」に向けてチャレンジし続けている。

昨年度は、幼保小中学びの接続カリキュラム開発やICTを効果的に活用した学びづくり、分析データを活用した授業改善等、本市の施策を具体的に研究、実践するパイロット校を指定し、前年度の成果と課題を踏まえ、授業改善に向けた取組を進めた。

教職員研修では、改めて学習指導要領に立ち返り、教材研究を中心とした研修を通して、授業実践力の向上を図った。

教職員の働き方については、時間外在校等時間と業務量の削減を進め、時間外在校等時間45時間以内の教職員は85.3%、授業づくりにあてる時間があると感じる教職員は69.8%で、2018年度（平成30年度）から、それぞれ2割程度増加している。

こうした取組の結果、市内全児童生徒対象の調査では91.3%の児童生徒が「授業が楽しい」と回答し、教職員アンケートでは「児童生徒と一緒に考える時間が楽しい」と回答した割合が98.3%となる等、数値にも子どもや教職員の姿にも成果が表れ、授業が変わってきている。

一方で、算数・数学の学力調査における正答率40%未満の割合は、小学生21.7%、中学生42.4%となっている。要因として、文章題において問われている意味が分からない、計算はできても出た答えが何を表しているのか分からない等、言葉と数の習得が十分でないことが挙げられる。就学前から義務教育9年間の学びをつなぎ、全ての教科の基盤となる「言葉と数」の感覚を豊かにし、理解を深めていくことが、学力の向上に必要なだと考えている。

(3) 今年度の取組

今年度も、全ての施策を「学び」一点に集中し、子どもたちが知っていることを使って考えると、わかることがたくさんあるという感覚を授業の中で積み重ね、言葉と数の理解に向かうよう、「子ども主体の学び」に取り組む。

〔主な取組〕

ア 主体的・対話的で深い学び

- 教材研究を中心に据えた校内研修体制の構築・再構築
- 「学びの探究」パイロット校事業の継続 ※2
- 幼保小中連携教育の内容の充実
- 学習端末を活用した学び

イ 多様な学びの場の充実

- 個に応じた特別支援の充実
- 学校が主体的に運営する学校図書館
- 全ての児童生徒が学校内外とつながり、学ぶ意欲を発揮する不登校等支援

ウ 学びをつくる教職員研修

- 子ども・教材への理解を深める教材研究を中心に据えた研修の充実
 - ・ 中学校4教科（国・社・数・理）の専門性パワーアップ研修
 - ・ 一斉研修、校内研修、初任者研修、中堅教諭等資質向上研修等

エ 元気・笑顔で学び続ける教職員

- 教職員がやりがいを実感する取組の充実
 - ・ 指定校事業、教職員研修等を活用した授業改善
 - ・ 指導主事・管理主事の訪問による学校の自主自立の支援・促進
- 教職員の負担軽減につながる取組の充実
 - ・ 日本語指導が必要な児童生徒の支援体制の整備（学校指導員の配置等）
 - ・ 校長面談・研修等による組織マネジメントの強化
 - ・ 統合型校務支援システム導入準備

※2 パイロット校事業の目的と取組状況

事業名	目的	取組状況
幼保小中学びの 接続 カリキュラム 開発校	学びの基盤となる言葉と数を子どもが獲得する過程を共有し、学びをつなぐカリキュラムを編成・実施・改善する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 連携協議会や合同研修会を定期的実施し、幼保小中で言葉と数の獲得に向けた保育・授業について協議した。 ・ 校区で子どもの学ぶ姿を共有しながら、学びをつなぐカリキュラムを編成・実施・改善した。
効果的なICT 活用実践研究校	児童生徒が学習端末等を自ら利活用し、効果的な学習を行うため、教科等の特質に応じた、学習端末の活用の実践的研究を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教材研究に基づいてICTの活用を検討し、活用する際は、目的・場面・方法を明確にした授業づくりを行った。 ・ 学期に1回、校内研修に位置付けた研究授業を行い、実施後に児童生徒の状況から取組を振り返り、成果、課題を協議した。
分析データを 活用した 授業改善実践校	学力調査・教職員アンケート等の分析データを活用し、児童生徒の学力（認知・非認知能力）の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各校が、「結果▶分析▶取組シート」に基づき、実践・検証・改善を繰り返しながら授業改善に取り組んだ。 ・ 校区での授業改善協議会を月1回程度実施し、分析や授業改善の具体を協議した。
地域とともに ある学校づくり 推進校	地域住民が、当事者として学校運営に参画するコミュニティ・スクールを基盤として、学校・家庭・地域が連携・協働して教育活動を推進し、児童生徒の成長を支援する体制を構築する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標と育成する力を委員と共有した上で、授業参観をし、子どもの姿を見て、地域素材を活用した教育活動について協議した。 ・ 委員が地域素材について教員から相談を受けたり、子どもの発表に助言したりするなど、教育活動に参画している。
アセスメントに 基づく指導支援 実践研究校	子どもの自己理解と環境の両面に焦点を当て、的確なアセスメントの研究・実証を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒アンケートや日々の様子から特性を把握し、行動の要因を分析した。 ・ 分析した結果をもとに、授業内容や教材を検討し、自立活動の授業を実施した。

5 通学路の安全対策について

(1) 要旨

2014年（平成26年）7月に策定した「福山市通学路交通安全プログラム」に基づき、通学路の交通安全の確保に向けた取組を行っている。

2022年度（令和4年度）実施の合同点検（5回目）の取組状況及び今年度実施の合同点検（6回目）の取組について報告する。

あわせて、2021年（令和3年）6月に千葉県八街市で発生した通学路における児童の死傷事故を受け実施した緊急合同点検に基づく対策が、2024年（令和6年）3月末に完了したので、その内容について報告する。

(2) 2022年度（令和4年度）合同点検（5回目）の取組状況

ア 取組経過

時 期		取 組 内 容
2022年度 (令和4年度)	6月	学校及び地域において危険箇所の抽出
	9月～12月	合同点検の実施及び集約
	1月	学校、地域、道路管理者及び警察による対策案の策定
	2月	福山市通学路安全推進会議において対策の決定
	1月～3月	対策の実施
2023年度 (令和5年度)	4月～3月	
2024年度 (令和6年度)	4月～	
	4月	各学校に対するアンケート調査の実施及び集約

※5回目の合同点検から「福山市通学路交通安全プログラム」の対象として、小学校に加え、中学校を追加している。

イ 対策の実施状況 [2024年（令和6年）3月末現在]

区 分		小学校	中学校	合計
(ア)	危険箇所抽出学校数	63校/72校	19校/33校	82校/105校
(イ)	点検箇所数 ①	415箇所	58箇所	473箇所
	合同点検箇所	408箇所	54箇所	462箇所
	随時合同点検箇所	7箇所	4箇所	11箇所
	(うち対策不要・経過観察) ②	(22箇所)	(2箇所)	(24箇所)
(ウ)	4回目合同点検分からの繰越分 ③	48箇所	0箇所	48箇所
(エ)	対策必要箇所数 ①-②+③	441箇所	56箇所	497箇所
(オ)	対策着手済の箇所数 (着手率)	337箇所 (76.4%)	46箇所 (82.1%)	383箇所 (77.1%)
(カ)	対策実施済の箇所数 (実施率)	229箇所 (51.9%)	30箇所 (53.6%)	259箇所 (52.1%)
(キ)	(エ)に係る対策件数	642件	80件	722件
(ク)	(キ)に係る対策実施済件数 (実施率)	363件 (56.5%)	44件 (55.0%)	407件 (56.4%)

【対策実施済件数（407件）の内訳】

※各件数は小学校分と中学校分の合計を、括弧内が中学校分のみ件の数を表す。

(ア) 道路管理者

(単位：件)

対 策 内 容	対 策 件 数			
	国	県	市	合計
歩道等の確保	0(0)	0(0)	15(0)	15(0)
歩車道境界の明示	1(0)	4(0)	23(0)	28(0)
車両の速度抑制	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
ドライバーへの注意喚起	2(0)	8(0)	25(0)	35(0)
維持管理	2(0)	14(0)	59(5)	75(5)
その他（転落防止柵の設置等）	0(0)	7(0)	36(0)	43(0)
合 計	5(0)	33(0)	158(5)	196(5)

(イ) 警察

(単位：件)

対 策 内 容	対策件数
信号機の設置・改良・移設	5(1)
横断歩道の新設	8(1)
規制の新設	6(2)
取締りの強化	20(5)
横断歩道の修復	45(4)
規制標示の修復	22(2)
その他（規制標識の増設等）	14(1)
合 計	120(16)

(ウ) 学校・地域

(単位：件)

対 策 内 容	対策件数
標示看板等の設置	1(0)
ストップマークの設置	5(0)
通学路の変更	3(0)
ドライバー・自転車利用者への協力依頼	0(0)
除草・草刈・剪定等	1(0)
見守りボランティアの対応	6(0)
横断旗の設置	2(0)
その他（交通安全指導の実施等）	73(23)
合 計	91(23)

ウ 対策効果の把握

- ・対策実施済の箇所について、その効果を各学校へのアンケート調査により把握
- ・学校は、自治会連合会、保護者、見守りボランティア、交通指導員等と連携して回答

<調査結果> (単位：箇所)

効果の有無	箇所数
あり	237 (91.5%)
なし	22 (8.5%)
合計	259 (100.0%)

(3) 2024年度(令和6年度)合同点検(6回目)の取組

ア スケジュール(予定)

時期	取組内容
5月	第1回福山市通学路安全推進会議において合同点検の取組方針の決定
6月	学校及び地域において危険箇所の抽出
8月～12月	合同点検の実施及び集約
1月	学校、地域、道路管理者及び警察による対策案の策定
2月	第2回福山市通学路安全推進会議において対策の決定

イ 対策の実施方針

- ・交通安全指導等のソフト対策は、危険箇所抽出の段階で速やかに実施する。
- ・ハード対策は、地域関係者と連携のもと、道路管理者、警察等の機関ごとに計画的に実施する。

(4) 2021年(令和3年)に千葉県八街市で発生した事故を受けた緊急合同点検に係る対策の実施状況

[2024年(令和6年)3月末現在]

区分		実施状況
ア	危険箇所抽出学校数	64小学校/75小学校
イ	点検箇所数 ①	318箇所
	(うち対策不要) ②	(26箇所)
ウ	対策必要箇所数 ①-②	292箇所
エ	対策実施済の箇所数 (実施率)	292箇所 (100.0%)
オ	ウに係る対策件数	368件
カ	オに係る対策実施済件数 (実施率)	368件 (100.0%)

【対策実施済の件数（368件）の内訳】

ア 道路管理者

(単位：件)

対策内容	対策件数			
	国	県	市	合計
歩道等の確保	0	3	10	13
歩車道境界の明示	0	8	31	39
車両の速度抑制	0	0	0	0
ドライバーへの注意喚起	0	4	61	65
維持管理	1	12	37	50
その他（転落防止柵の設置等）	0	3	29	32
合計	1	30	168	199

イ 警察

(単位：件)

対策内容	対策件数
信号機の設置・改良・移設	2
横断歩道の新設	3
規制の新設	2
取締りの強化	15
横断歩道の修復	39
規制標示の修復	10
その他（規制標識の増設等）	16
合計	87

ウ 学校・地域

(単位：件)

対策内容	対策件数
標示看板等の設置	4
ストップマークの設置	4
通学路の変更	5
ドライバー・自転車利用者への協力依頼	5
除草・草刈・剪定等	2
見守りボランティアの対応	0
横断旗の設置	0
その他（交通安全指導の実施等）	62
合計	82

(5) 今後について

引き続き、学校、地域、道路管理者及び警察と緊密な連携をとり、合同点検に基づく対策を計画的に実施し、通学路の安全確保に努める。

議第8号

2025年度（令和7年度）福山市立福山中学校及び福山市立福山高等学校の入学
者選抜の基本方針及び選抜日程について

2025年度（令和7年度）福山市立福山中学校及び福山市立福山高等学校の入学
者選抜の基本方針及び選抜日程については、別紙のとおりとする。

(別紙)

福山市立福山中学校

福山市立福山中学校の入学者の選抜は、併設型中高一貫教育の特色に配慮して、次によりその教育を受けるに足る意欲・適性等を判断して行うものとする。

1 選抜

(1) 選抜の方法

ア 適性検査

(ア) 思考力や思考過程、判断力、表現力等、小学校等教育において身に付けた総合的な力を見るため、次の検査を行う。

検査1	資料等をもとに、課題を発見し解決する過程を多様な方法で表現する。
検査2	与えられたテーマや文章に基づき、自分の思いや考え等を文章で表現する。

(イ) 実施時間は、各45分とする。

イ 志望理由書

ウ 調査書

(ア) 調査書は、指導要録に基づき、作成されたものとする。

(イ) 調査書中の各事項（学習の記録の評定、学習の記録の観点別学習状況、総合的な学習の時間の記録、特別活動の記録及びその他の事項）については、5、6年生時（6年生時については、2学期末現在）のものとする。

(2) 合格者の決定

上記(1)の結果を総合的に判断して決定する。

2 その他

入学者選抜に係る簡易開示については、別に定めるところによる。

3 日程

内容	実施日・期間	【参考】 2024年度（令和6年度）選抜
入学願書等受付	1月 8日（水）～ 1月16日（木）正午	1月 4日（木）～ 1月12日（金）正午
適性検査	1月25日（土）	1月20日（土）
合格者発表	2月5日（水）までに 郵送により通知	1月31日（水）までに 郵送により通知

福山市立福山高等学校

福山市立福山高等学校の入学者選抜は、併設型中高一貫教育の特色に配慮して、次によりその教育を受けるに足る能力・適性等を判定して行うものとする。

1 一次選抜

次により実施する。

(1) 選抜の方法

ア 学力検査

(ア) 原則として、自校が作成した検査問題により学力検査を実施する。

- a 実施教科は、国語、数学及び外国語（英語）の3教科とする。
- b 実施時間は、福山高等学校長が決定する。
- c 配点は、福山高等学校長が決定する。
- d 検査問題は、福山市教育委員会と協議の上、福山高等学校長が作成する。
- e 検査問題は、平成29年文部科学省告示の中学校学習指導要領に準拠した内容とする。

(イ) 福山高等学校長は、社会及び理科の一般学力検査を加えて実施することができる。

イ 調査書

(ア) 学習の記録の評定及び合計評点

- a 第1学年及び第2学年の国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭及び外国語については、それぞれ指導要録に従って5段階で評定する。
- b 第3学年の国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭及び外国語については、それぞれ指導要録に従って5段階で評定した評点を3倍する。
- c 調査書の合計評点は、上記a及びbを合計した225点満点とする。

(イ) 特記事項については、選抜の資料として活用する。

ウ 自己表現

(ア) 自己を認識する力、自分の人生を選択する力及び表現する力をみるために、個人ごとの面談形式で実施する。

(イ) 実施時間は、1人当たり10分以内とする。

(ウ) 配点は、検査官1人当たり15点満点とする。

なお、福山高等学校長は、2～3人の範囲内で検査官の人数を定める。

エ 学校独自検査

福山高等学校長は、面接、作文、小論文、実技検査等を実施することができる。

(2) 合格者の決定

ア 特色枠による選抜

福山高等学校長は、入学定員の50%以内において、次のとおり、合格者を決定することができる。

(ア) 福山高等学校長は、学力検査、調査書及び自己表現の配点の比重を定め、学力検査、調査書及び自己表現の結果を総合的に判断して決定する。

(イ) 学力検査及び調査書について、福山高等学校長は、特定の教科のみを活用することができる。また、特定の教科の配点に比重をかける傾斜配点を実施することができる。

イ 一般枠による選抜

学力検査、調査書及び自己表現の配点の比重は6：2：2とし、学力検査、調査書及び自己表現の結果を総合的に判断して決定する。

なお、学力検査について、福山高等学校長は、特定の教科の配点に比重をかける傾斜配点を実施することができる。

ウ 特色枠による選抜を実施した場合は、特色枠による選抜により合格者を決定した後、一般枠による選抜により合格者を決定する。

エ 学校独自検査を実施した場合は、その結果を選抜の資料に加えて、総合的に判断して決定する。

2 二次選抜

一次選抜の結果、合格者(入学を辞退した者を除く。)の数が入学定員に満たない場合、次により実施する。

(1) 選抜の方法

ア 調査書

(ア) 学習の記録の評定及び合計評点

a 第1学年及び第2学年の国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭及び外国語については、それぞれ指導要録に従って5段階で評定する。

b 第3学年の国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭及び外国語については、それぞれ指導要録に従って5段階で評定した評点を3倍する。

c 調査書の合計評点は、上記a及びbを合計した225点満点とする。

(イ) 特記事項については、選抜の資料として活用する。

イ 自己表現

(ア) 自己を認識する力、自分の人生を選択する力及び表現する力をみるために、個人ごとの面談形式で実施する。

(イ) 実施時間は、1人当たり10分以内とする。

(ウ) 配点は、検査官1人当たり15点満点とする。

なお、福山高等学校長は、2～3人の範囲内で検査官の人数を定める。

ウ 学校独自検査

福山高等学校長は、学力検査以外の面接、作文、小論文、実技検査等を実施することができる。

(2) 合格者の決定

ア 福山高等学校長は、調査書及び自己表現の配点の比重を定め、調査書及び自己表現の結果を総合的に判断して決定する。

イ 学校独自検査を実施した場合は、その結果を選抜の資料に加えて、総合的に判断して決定する。

3 帰国生徒及び外国人生徒等の特別入学に関する選抜

国語、数学及び外国語（英語）の学力検査、自己表現及び面接の結果（学校独自検査を実施した場合は、その結果を加える。）並びに出願書類を総合的に判断して決定する。

4 日程

一次選抜

学力検査・自己表現等	2月26日（水）～2月28日（金）
追 検 査	3月 5日（水）
合 格 者 発 表	3月10日（月）

※帰国生徒及び外国人生徒等の特別入学に関する選抜も同一日程とする。

二次選抜

自 己 表 現 等	3月18日（火）
合 格 者 発 表	3月19日（水）

5 その他

入学者選抜の結果に係る簡易開示については、別に定めるところによる。